

Ⅲ 2011-1 鹿大構内遺跡 R～T - 7～9 区 (附属中学校グラウンド改修工事その他工事) 発掘調査

Tab.4-1 2011-1 ピットサイズ一覧

地区	名称	大きさ	深さ	埋土	備考			
ルート2	a 地点	P6	29.3x28.0	—	4層土	未掘削		
		P7	42.6	—	4層土	未掘削		
		P8	18.6x22.8	—	4層土	未掘削		
		P9	34.4	—	4層土	未掘削		
		P10	26.9x30.8	—	4層土	未掘削		
		P11	21.7x24.8	—	4層土	未掘削		
		P12	19.7x21.2	—	4層土	未掘削		
		P13	20.8x27.3	—	4層土	未掘削		
		P14	23.1x42.1	—	4層土	未掘削		
		P15	29.1	—	4層土	未掘削		
		P16	28.6x31.4	—	4層土	未掘削		
	b 地点	P17	20.5x25.6	—	4層土	未掘削		
		P18-1	17.4x20.8	—	4層土	未掘削		
		P18-2	35.0x49.7	—	4層土	未掘削		
		P19	30.3x33.7	—	4層土	未掘削		
		P20	23.7x30.2	—	4層土	未掘削		
		P21	29.0	—	4層土	未掘削		
		P22	24.6x29.4	—	4層土	未掘削		
		P23	17.7	—	4層土	未掘削		
		P24	35.9x42.1	—	4層土	未掘削		
		c 地点	P25	28.7x29.0	—	4層土	未掘削	
			P26	32.8x34.2	—	4層土	未掘削	
	P27		27.2x29.6	—	4層土	未掘削		
	P28		34.3x42.1	—	4層土	未掘削		
	P29		42.2x43.0	—	4層土	未掘削		
	P30		24.2x28.1	—	4層土	未掘削		
	P31		26.4x28.5	—	4層土	未掘削		
	P32		23.0x26.2	—	4層土	未掘削		
	P33		31.6	—	4層土	未掘削		
	P34		26.1x27.3	20.5	4層土			
	P35		36.0x53.0	38.4	4層土			
	d 地点		P36	43.9x46.9	41.7	4層土		
		P37	25.9x27.2	40.1	4層土			
		P38	27.0x30.0	17.6	4層土			
		P39	21.2	16.3	4層土			
		P40	26.0	9.9	4層土			
		P41	30.9x32.0	20.7	4層土			
		P42	23.2x36.1	13.2	4層土			
		P43	32.1x43.0	20.5	4層土			
		P44	21.4x25.3	24.4	4層土			
		P45	36.2x39.8	31.8	4層土			
		ルート7	a 地点	P54	31.7x35.1	34.6	4層土	
	P46			22.8x26.5	9.2	4層土		
	P47			20.7x28.5	26.7	4層土		
P48	24.6x30.2			42.4	4層土			
P49	33.3			25.6	4層土			
P50	21.2x21.6			29.6	4層土			
P51	21.2x22.5			22.2	4層土			
P52	30.9x38.2			10.1	4層土			
P53	29.0x39.8			11.3	4層土			
P5	18.0x19.2			40.2	4層土			
P4	24.1x25.0			22.1	4層土			
P3	19.0x19.4			13.1	4層土			
P2	32.0x38.9			25.0	4層土			
P1	20.2x32.9			22.5	4層土			
ルート7	a 地点			P104	21.8x41.7	26.3	4層土	不整形
				P105	14.0x25.0	17.3	4層土	
				P103	27.3x28.4	20.5	4層土	
		P102	18.1x33.8	14.1	4層土			
		P101	32.5	64.5	4層土			
		P100	30.9	39.1	4層土			
		P99	37.0	28.8	4層土			
		P98	31.0x33.3	24.8	4層土			
		P97	11.8x17.9	18.4	4層土			
		P96	20.8	33.4	4層土			
		P95	18.2x23.0	23.2	4層土			
		P93	11.6x11.6	15.7	4層土			
		P92	30.2x40.0	21.5	4層土			
		P89	23.6x44.1	52.4	4層土	土器埋納?		
		P88	15.7x35.0	26.2	4層土			
		P90	12.9x15.4	22.4	4層土			
		P87	10.4x16.3	20.2	4層土			
		P86	19.0x19.3	6.7	4層土			
		P85	21.9	25.3	4層土			
		P84	33.5x60.0	44.1	4層土	不整形		
		P76	37.8x72.9	48.2	4層土	不整形		
		P80	18.1x18.2	19.2	4層土			
		P75	19.6x21.0	8	4層土			
		P77	17.4	23.8	4層土			
		P78	12.8	27.8	4層土			
		P79	23.1	16.9	4層土			
		P74	19.3x35.9	44.5	4層土	不整形		
		P73	22.2x47.0	46.4	4層土	不整形		
		P72	17.7	31.0	4層土			
		P70	24.0x32.1	19.7	4層土	不整形		
		P71	12.5	8.1	4層土			
		P69	26.1x44.6	47.4	4層土	不整形		
		P68	26.0x37.8	37.7	4層土	不整形		
		P67	17.6x19.2	36.2	4層土			
		P66	37.1	69.6	4層土			
		P65	21.5x32.2	37.1	4層土			
		P64	23.5x30.4	45.8	4層土			
		P63	16.8x21.0	27.2	4層土			
		P61	22.8x26.7	38.7	4層土			
		P62	17.8x18.8	22.4	4層土			
		P60	18.6	47.6	4層土			
		P57	17.8x22.6	23.7	4層土			
		P59	20.8x22.4	24.0	4層土			
		P58	29.1x42.6	25.1	4層土	不整形		
P56	18.2x22.8	43.8	4層土					
P55	35.6	49.0	4層土					
ルート7	b 地点	P229	24.1x33.0	49.3	4層土			
		P228	25.4x30.2	33.8	4層土			
		P230	42	33.3	4層土	不整形		
		P231	26.0x26.5	22.1	4層土			
		P232	23.1x28.1	38.2	4層土			
		P233	17.1x21.1	17.2	4層土			
		P234	23.8x25.0	48.5	4層土			
		P268	20.7x26.8	27.4	4層土			
		P240	19.5x20.9	15.7	4層土			
		P267	20.5	45.6	4層土			
		P269	30.0x48.2	60.2	4層土			
		P271	19.8	27.6	4層土			
		P270	25.8x29.3	18.7	4層土	不整形		
		P272	58.4x58.8	62.8	4層土	不整形		
		P266	18.5	32.8	4層土			
		P265	31.9x32.4	26.9	4層土			
		P264	26.0x27.6	23.9	4層土			
		P263	22.0x23.5	9.7	4層土			
		P262	21.2x23.0	8.5	4層土			
		P261	20.6	44.2	4層土			
		P235	23.6x26.7	30.8	4層土			
		P236	45.9 柱痕 10.3	59.5	4層土			
		P237	21.7x28.6	17.9	4層土			
		P238	32.1x55.5	62.4	4層土	不整形		
		P239	35.9	52.6	4層土			
		P259	23.2x25.9	54.4	4層土			
		P258	22.8x25.0	33.7	4層土			
		P260	35.0	25.9	4層土	不整形		
		P246	30.0	49.7	4層土			
		P245	25.8x31.9	11.5	4層土			
		P241	27.5x28.7	34.3	4層土			
		P242	36.0x54.2	81.1	4層土			
		P243	61.1	60.5	4層土	不整形		
		P273	26.3x32.9	46.0	4層土			
		P275	20.8x22.3	25.2	4層土			
		P274	25.3x30.2	14.1	4層土			
		P276	36	50.5	4層土			
		P277	19.0x24.1	41.8	4層土			
		P279	19.3x26.0	33.4	4層土			
		P278	33.2	53.5	4層土			
		P280	26.1	6.3	4層土			
		P281	33.2	48.0	4層土			
		P282	32.3x36.5	28.6	4層土	不整形		
		P283	17.5x21.9	13.9	4層土			
P284	24.6x29.2	52.3	4層土					
P285	19.5	31.7	4層土					
ルート7	c 地点	P257	31.0	26.7	4層土			
		P256	22.6x26.3	27.6	4層土			
		P255	17.2	5.6	4層土			
		P254	23.8x26.3	16.3	4層土			
		P252	10.8x20.0	5.9	4層土			
		P253	13.0x17.0	7.4	4層土			
		P251	13.9	6.2	4層土			
		P250	14.5	28.5	4層土			
		P249	21.5	31.9	4層土			
		P248	16.0x28.8	32.0	4層土			
		P247	27.1x32.5	34.9	4層土			
		P106	47.4	41.0	4層土			
		P107	25.4	7.8	4層土			
		P108	23.6x31.1	11.9	4層土			
		P109	13.2x16.6	20.8	4層土			
		P110	17.9x26.0	21.7	4層土			
		P111	31.6	74.8	4層土			
		P112	28.5x30.1	45.2	4層土			
		P113	22.2x23.9	19.0	4層土			
		P114	22.0x26.5	39.1	4層土			
		P116	18.1x19.7	14.6	4層土			
		P115	28.2x29.0	55.0	4層土			
		P118	17.5x25.6	27.5	4層土			
		P119	17.3	29.8	4層土			
		P120	28.6x30.8	26.0	4層土			
		P121	27.0	7.4	4層土			
		P122	57.3	13.1	4層土			
		P123	37.2	13.4	4層土			
		P124	28.7	38.2	4層土			
		P125	17.7	27.1	4層土			
		P126	16.7x19.2	11.1	4層土			
		P227	21.4x21.5	21.4	4層土			
		P226	18.5	18.5	4層土			
		P225	26.1x37.6	58.8	4層土			
		P290	29.4x36.0	51.9	4層土	土器廃棄		
		P224	16.4	33.5	4層土			
		P223	31.3x32.5	38.2	4層土			
		P130	20.0x28.1	37.8	4層土			
		P127	22.8x24.5	32.6	4層土			
		P128	16.8x29.1	48.2	4層土			
		P129	16.9x28.2	32.8	4層土			
		P131	17.9	37.7	4層土			
		P222	15.0x15.1	31.4	4層土			
		P294	43.4x65.2	25.4	4層土			
P295	49.3	47.3	4層土					
P221	28.0x28.5	48.9	4層土					
P219	18.0x21.1	14.5	4層土					
P218	11.3x15.9	9.6	4層土					
P217	12.5x12.5	24.0	4層土					
P215	14.1	23.1	4層土					
P216	16.5x16.9	49.2	4層土					
P220	15.2	29.0	4層土					
P214	13.2	5.0	4層土					
P213	11.0x23.0	16.5	4層土					
P211	16.6	28.5	4層土					
P212	15.0x28.8	46.7	4層土					
P210	18.0x18.0	36.8	4層土					

Tab.4-2 2011-1ピットサイズ一覧

地区	名称	大きさ	深さ	埋土	備考	地区	名称	大きさ	深さ	埋土	備考
ルート7 c地点	P209	15.4x16.0	37.2	4層土	不整形	ルート7 c地点	P148	28.0x31.2	69.8	4層土	不整形
	P203	19.6x32.0	16.6	4層土			P146	36.6x38.3	44.9	4層土	
	P200	20.9	39.4	4層土			P147	24.5x25.0	12.8	4層土	
	P199	19.1x22.3	14.7	4層土			P145	16.5	10.4	4層土	
	P202	40.2	11.3	4層土			P144	18.1x26.2	17.7	4層土	
	P201	27.3x29.7	20.6	4層土			P143	27.8x30.5	19.5	4層土	
	P198	19.0	34.3	4層土			P142	24.0	15.3	4層土	
	P197	13.2	9.9	4層土			P190	29.5x45.5	23.9	4層土	
	P196	27.8x29.5	25.1	4層土			P189	10.5x16.7	15.5	4層土	
	P195	12.6x29.1	31.4	4層土			P188	16.0x18.9	11.6	4層土	
	P194	20.5x36.5	39.2	4層土			P187	48.7x71.8	30.5	4層土	
	P193	33.5x42.8	39.3	4層土			P186	37.2	29.4	4層土	
	P192	28.9	53.7	4層土			P185	12.0x12.2	22.9	4層土	
	P191	16.2x23.3	34.4	4層土			P184	11.0x00.2	12.6	4層土	
	P153	28.5	22.2	4層土			P183	19.1x26.9	27.2	4層土	
	P154	40.0x44.2	25.1	4層土			P182	27.0x28.0	23.4	4層土	
	P205	20.0x22.6	25.5	4層土			P181	10.6	16.6	4層土	
	P204	25.0x26.0	24.6	4層土			P293	22.4	57.8	4a層土	
	P150	29.2x32.8	44.4	4層土			P175	17.9x19.3	22.2	4層土	
	P151	26.5	33.9	4層土			P180	11.114.7	12.4	4層土	
	P152	26.9x37.7	44.2	4層土			P176	12.2x19.2	10.4	4層土	
	P206	21.3x31.5	25.4	4層土			P179	19.9	20.6	4層土	
	P149	18.2	39.8	4層土			P177	13.2x15.0	16.5	4層土	
	P208	14.2	29.7	4層土			P178	10.0x11.5	18.3	4層土	
	P207	16.7x24.5	31.1	4層土			P174	28.7x30.4	36.0	4層土	
	P169	37.3	40.3	4層土			P171	26.0x32.8	27.0	4層土	
	P168	39.8	38.4	4層土			P173	26.7	15.1	4層土	
	P167	37	44.8	4層土			P172	10.7x15.0	11.4	4層土	
	P165	21.7x26.6	23.4	4層土			P170	24.1x31.4	27.8	4層土	
	P164	23.5x31.7	24.5	4層土			P140	25.6	29.4	4層土	
	P163	40.9	19.7	4層土			P139	22.5x25.2	21.5	4層土	
	P166	26.1x30.2	28.5	4層土			P138	26.6x42.2	23.6	4層土	
	P162	50.3x54.8	30.5	4層土			P292	27.6x30.0	46.3	4a層土	
P161	46.3	37.6	4層土	P135	28.4	19.3	4層土				
P160	39.9	40.8	4層土	P136	44.5	25.4	4層土				
P159	23.9	15.5	4層土	P134	24.9	18.0	4層土				
P158	24.8	35.2	4層土	P291	32.9	50.1	4a層土				
P157	21.5	42.3	4層土	P141	21.0	35.3	4層土				
P156	45.9	24.2	4層土	P133	43.8x47.6	22.4	4層土				
P155	36.0x38.2	24.6	4層土	P132	29.5x33.6	21.9	4層土				

6 遺物 (Fig.25～38, PL.10～23)

2011-1 地点より多量の遺物が得られたが (Tab.5), 図化可能な遺物はさほどない。ここでは、各層ごとに出土遺物をみていく。遺物は弥生時代～古墳時代の土器を中心に、縄文土器、土師器、須恵器、近世・近代の陶磁器類、石器類、鉄器などがある。2層はほとんどを重機によって掘削したため、遺物は得られていない。3層は近世の陶磁器類が主体となり、4層は古墳時代の土器が主体となる。遺物の詳細については、Tab.6 参照のこと。

6-1 試掘調査の遺物 (Fig.25, PL.10)

試掘調査 H 地点 3 層 (本調査の 4 層) において、ミニチュア土器の脚部破片が出土している (12)。場所から比定して、ルート 7b・c 地点の竪穴住居跡 SI02 に属するものと考えられる。脚の付け根に指頭痕が残っている。中空脚を形成しているところからみて、古墳時代に属する。

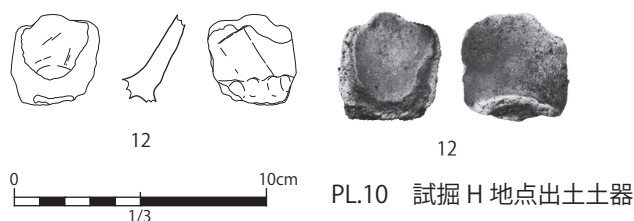


Fig.25 試掘 H 地点出土土器

6-2 1 層の遺物 (Fig.25, PL.11)

現代の攪乱が及ぶ表土・攪乱層や、壁面清掃中に出土層位が不明となったものなどを含めて 1 層としている。弥生時代～現代の遺物まで出土する。以下、時代の古いものから記載する。

13 は弥生時代後期前半の瀬戸内凹線文系甕の口縁部である。

14 は壺の底部であるが、底面が平坦で、立ち上がりが角ばった形状をしており、弥生時代後期頃のものと思われる。

15 は弥生時代後期の甕口縁部で、表裏面にハケメが消えきらずに残存している。

16 は古墳時代の成川式甕口縁部と考えられる。

17 は同壺の突帯部である。刻目突帯上にイネの圧痕が認められる。

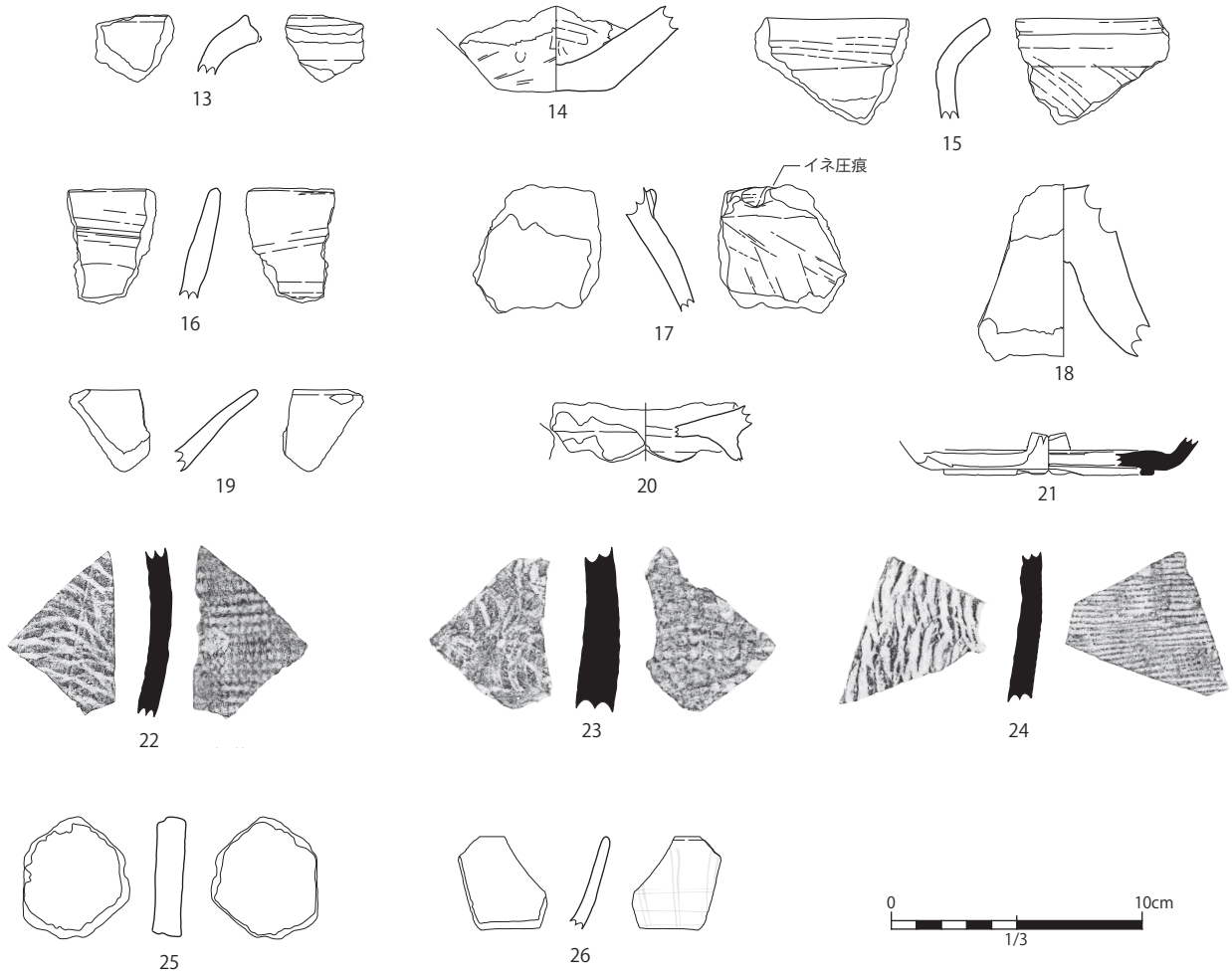
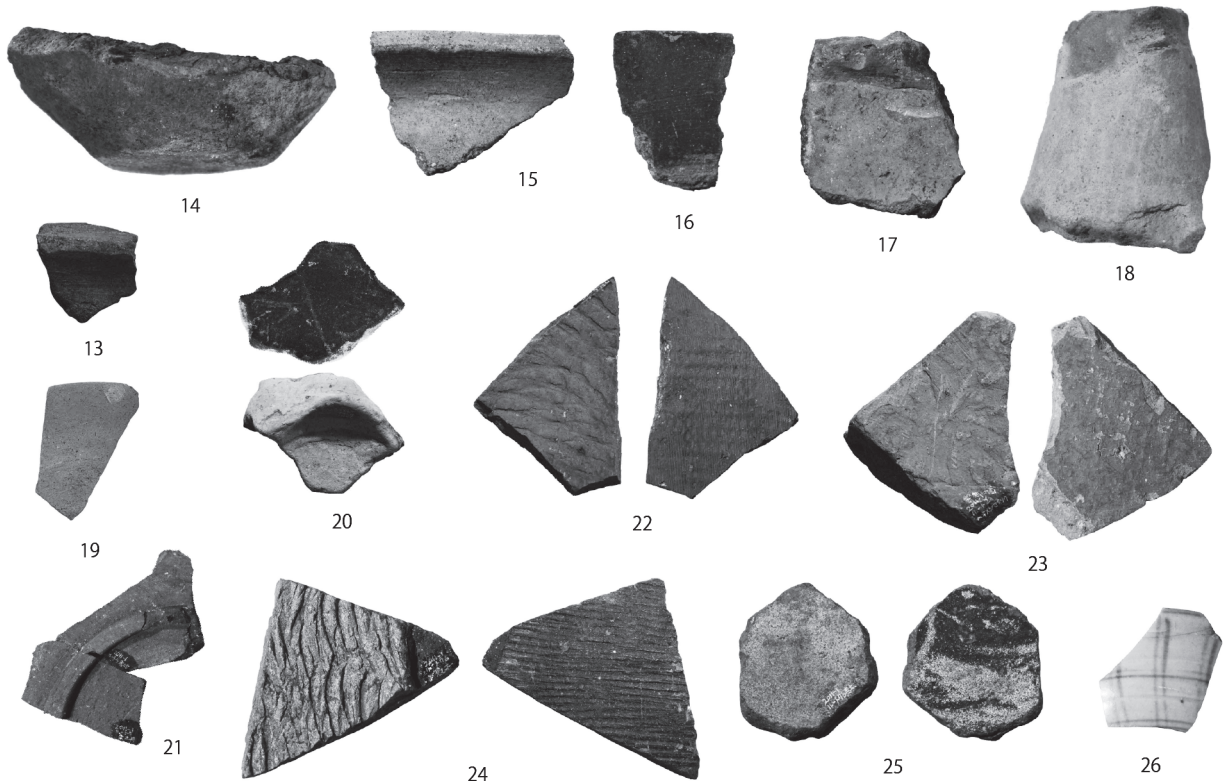


Fig.26 2011-1 1層出土遺物



PL.11 2011-1 1層出土遺物

25 は近世薩摩焼苗代川系の陶器と思われる製品の胴部片の周縁部を打ち欠き、略円形に整えた円盤状加工品である。

26 は肥前・波佐見焼の染付碗の口縁部である。外面に格子目文が描かれる。

6-3 3a 層の遺物 (Fig.27, PL.12)

27 は古墳時代成川式土器甕の突帯部で略台形の一条突帯である。突帯側面には指頭痕が明瞭に残る。

28 は成川式壺の突帯部の破片である。外面に竹管文が施される。

29 は近世の焙烙の把手部分である。内面は粘土の折り返しが残る。

30 は熱変質したシルト岩のノミ形石器である。左側部は破損後に研磨し直し、刃部も研ぎ直しが行われているが、細かい剥離が残っている。全面に横方向の研磨による線条痕が残る。長さ 4.82cm, 幅 2.24cm, 厚さ 0.83cm, 重量 16.9g である。近世のものではなく、弥生時代か古墳時代のものであろう。

6-4 3b 層の遺物 (Fig.28, PL.13)

31 は古墳時代成川式土器甕の口縁部, 32 は同絡縄突帯部, 33 は同脚部である。33 は外側に粘土を継ぎ足して中空脚を成形する接合痕が明瞭に残っている。

34 は古代土師器碗の高台部である。高台部を坏部に接合した痕跡が明瞭に残る。

35 は黒色土器 (内黒) で内面にミガキが施される。9 世紀代の資料と考えられる。

36 は須恵器坏の口縁部である。37・38 は須恵器の甕あるいは壺の胴部片である。37 はタタキ具, 当具ともに平行線文, 38 は外面に格子目文タタキ, 内面に車輪文当具を用いている。

39 は須恵器蓋であり, 8 世紀後半～9 世紀前半の資料であろう。38・39 は酸化焼成である。

40 は中世代の瓦質土器の底部の可能性が考えられるが, 土器にも類似しており確言できない。底面から 3cm 上部にミズ腫れ状の一条の三角突帯が巡る。内面はハケメが著しく残存している。

41 は備前焼播鉢の口縁部である。13 世紀末～15 世紀初頭であろう。

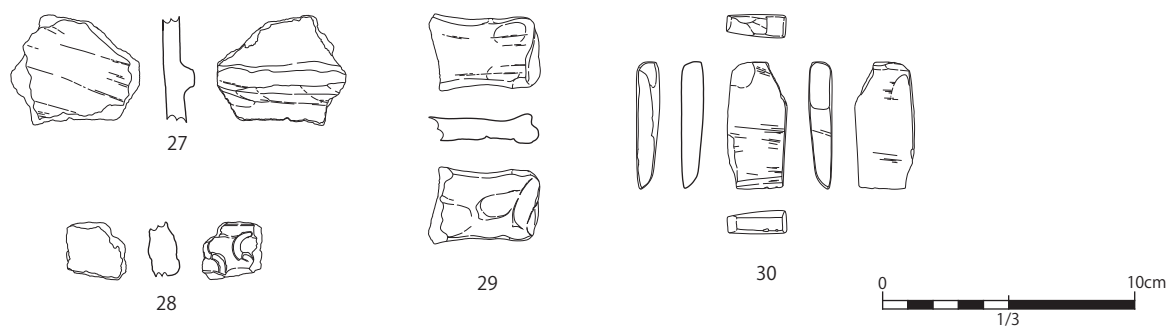
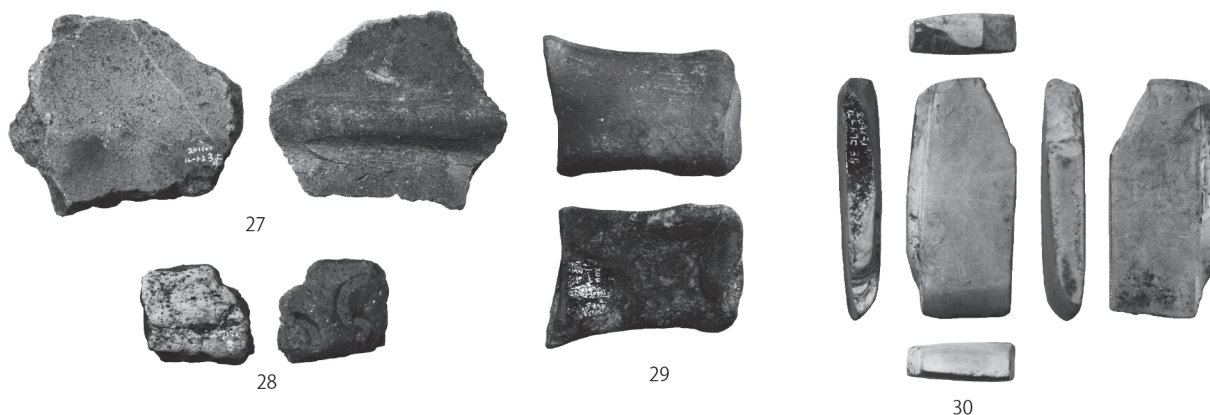


Fig.27 2011-1 3a 層出土遺物



PL.12 2011-1 3a 層出土遺物

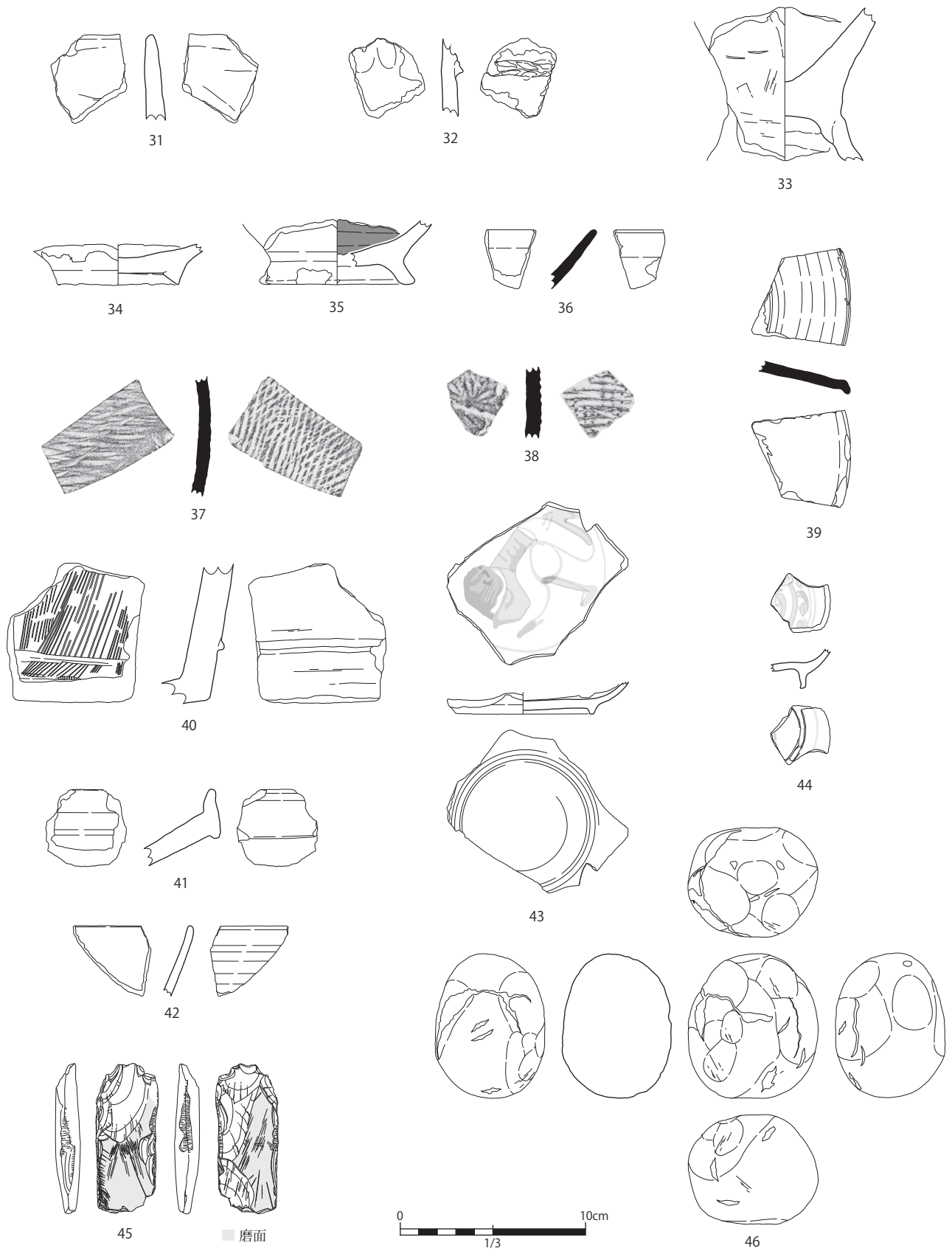
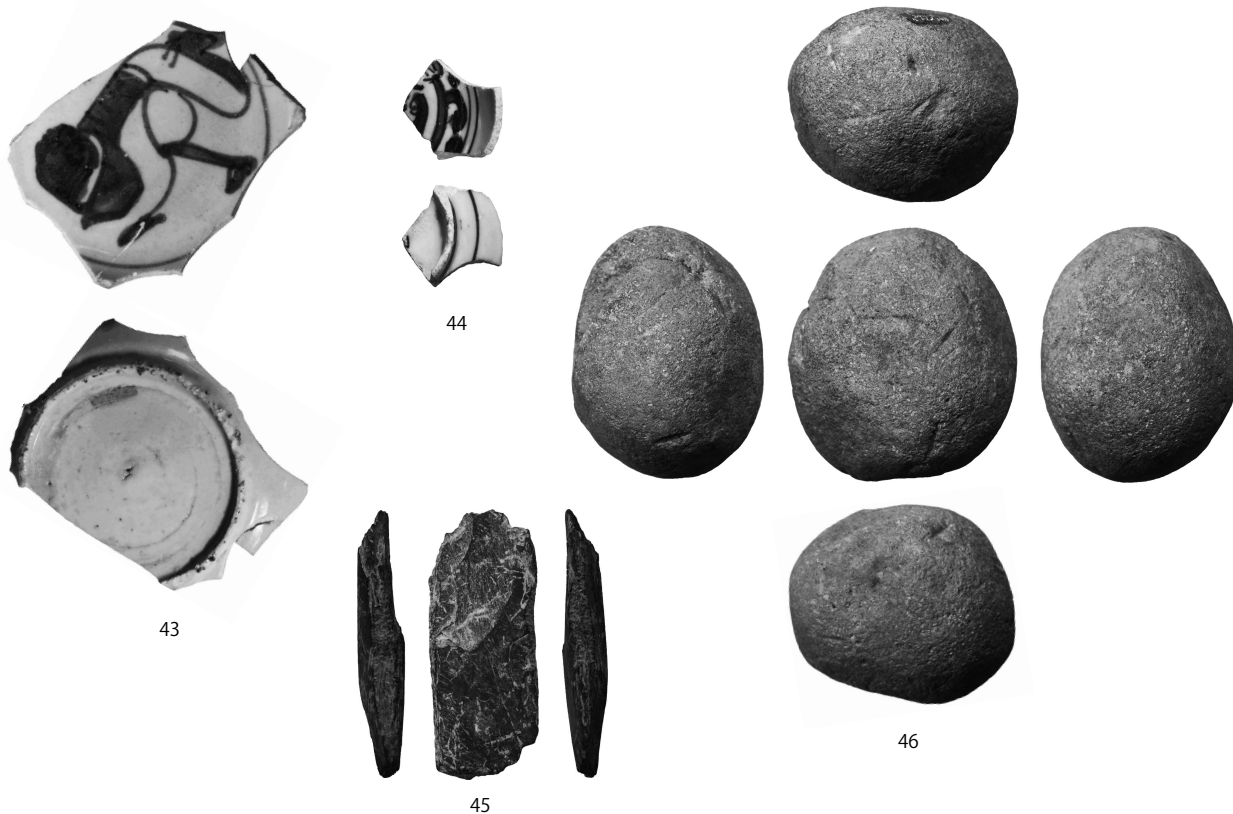
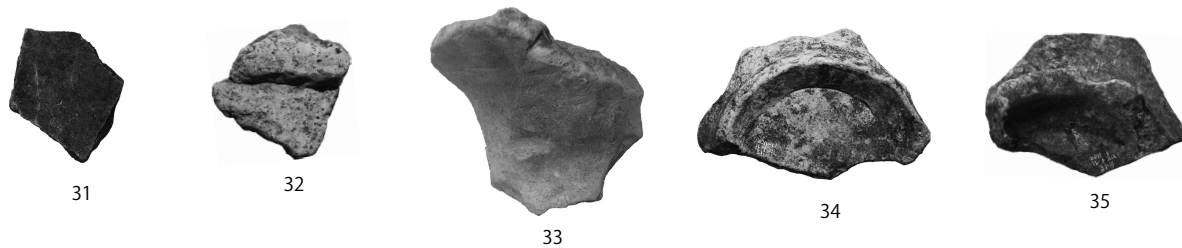


Fig.28 2011-1 3b 層出土遺物



PL.13 2011-1 3b 層出土遺物

42 は陶器の口縁部であるが詳細は不明である。

43 はいわゆる漳州窯系青花皿であると考えられる。見込みには圏線内部に袂で顔を覆うようなしぐさの人物文が描かれる。16 世紀後半～17 世紀前半と考えられる。

44 も同系の青花碗と考えられるが詳細は不明である。見込みに波状の文様が描かれる。

45 は泥岩製の剥片を利用したノミ形石器様の石器であるが、両面は丁寧に研磨されている。両端は縦方向の剥離で破損したままとなっている。側面には垂直方向のキズがあり、潰しだけでなく、装着時の緊縛の際に滑り止めを意図した可能性もあるのかもしれない。長さ 8.32cm、幅 3.33cm、厚さ 1.21cm、重量 48.5g である。側面に垂直方向のキズのある剥片石器は、釘田第一地点にも出土例があり¹⁾、その例に類するなら、古墳時代の石器の可能性が高い。

46 は流紋岩質安山岩の円礫を利用した敲石で、10 箇所平坦面が形成されている。大きさ 5.96～7.82cm、重量 361g である。

6-5 4 層の遺物 (Fig.29～38, PL.14～23)

本調査では、4 層の遺物が最も多い。ここでは古い時代から遺物を説明する。また、土器、土師器、須恵器、鉄製品、石器の順に記載する。

47～51 は縄文時代前期の曾畑式土器胴部片である。横位の短沈線文区画帯間を沈線による三角充填文で埋める資料群である。内面はナデ、貝殻条痕などが施されるが、その違いと器厚などで、(47・50) と (48・49・51) の 2 個体分があると推察される。50 や 51 は 4 層中の最も最深部より出土しているため、基盤砂

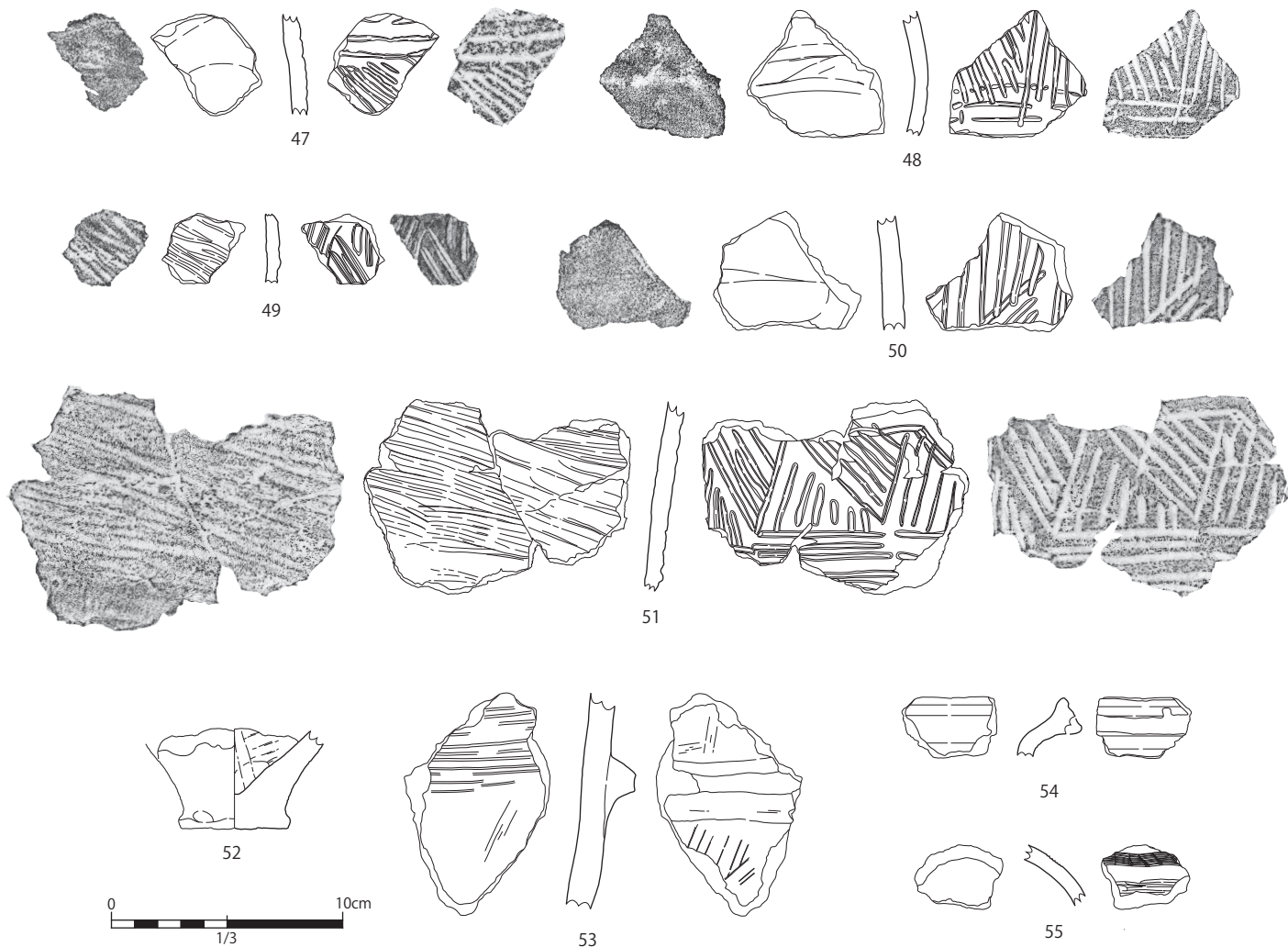


Fig.29 2011-1 4 層出土遺物 (1)

層の5層上に、植生が回復する初期段階でもたらされたものであろう。

52は弥生時代の小型甕の底部と考えられる資料である。角閃石が多量に含まれる。

53は近世の大型土坑SX01より出土したもので、弥生時代中・後期の大型甕の突帯部分と考えられる。内外面にハケメが残存している。表面が若干摩滅している。

54は瀬戸内凹線文系甕の口縁部であり、SD1埋土中より出土した。弥生後期前半であろう。

55も同系の幅8.5mmの櫛描により簾状文を肩部に巡らす壺の破片である。古代の土坑SK2より出土しているが、弥生時代中・後期頃の所産と考えられる。

56・57・58・70はルート7c地点P290より一括出土した、成川式土器様式群の東原式土器で、古墳時代前期の土器である。

56の甕は外面が縦位のハケメをナデ消し、口縁部は丁寧にナデられる。内面はナデによる。ほぼ完形品である。

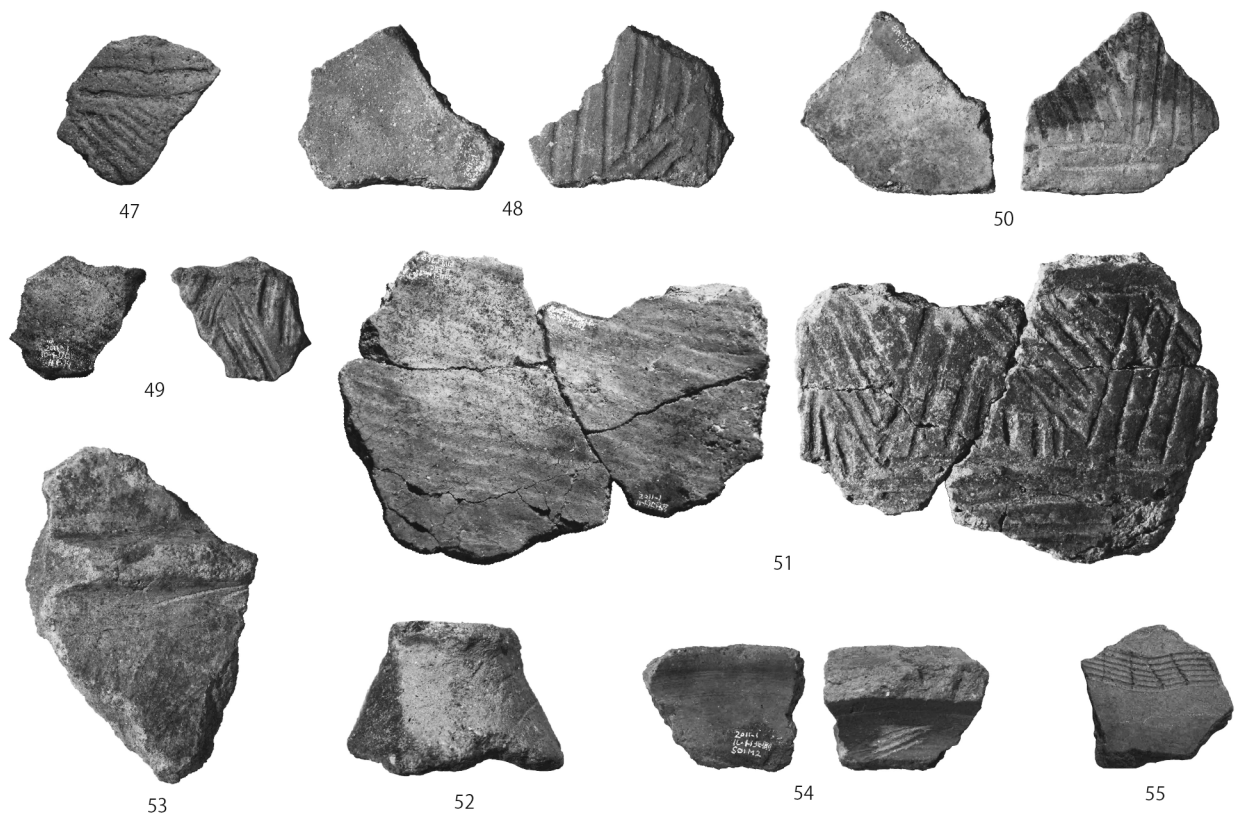
57・58は接合しないが同一個体の小型甕とみられるもので、器壁が厚く雑な作りである。内面に横位のハケメを著しく残す。

以下は同時期と考えられる甕をまとめた。59～66は甕の甕の口縁部であるが、口唇部が舌状を呈し、口が開くもの(59・63・64)、口唇部を面取りし、あまり口の開かないもの(60・61・62)、口唇部が厚く丸みを帯び、口の開くタイプ(65・66)などがある。60はSK1、63はP228、64はSI01より出土している。突帯は三角突帯(67)、絡縄突帯(68)などがある。67はSK9、68はSI02より出土している。69は甕の脚部であるが、底部接地部分が平坦に磨り切られており、再利用品の可能性がある。

70～77は壺と思われるものを挙げた。

70はP290内一括出土品のひとつで、一条の三角突帯を胴部に付す壺形土器であり、内外面ともにヘラナデをナデ消している。口唇部は工具によって面取りし、平坦面を形成するものがほとんどである(70～74)。

71はSI01、73はSK24より出土している。突帯は斜位の刻目突帯(75)、押し引き状の突帯(76)などがある。77は壺の底部である。



PL.14 2011-1 4層出土遺物(1)

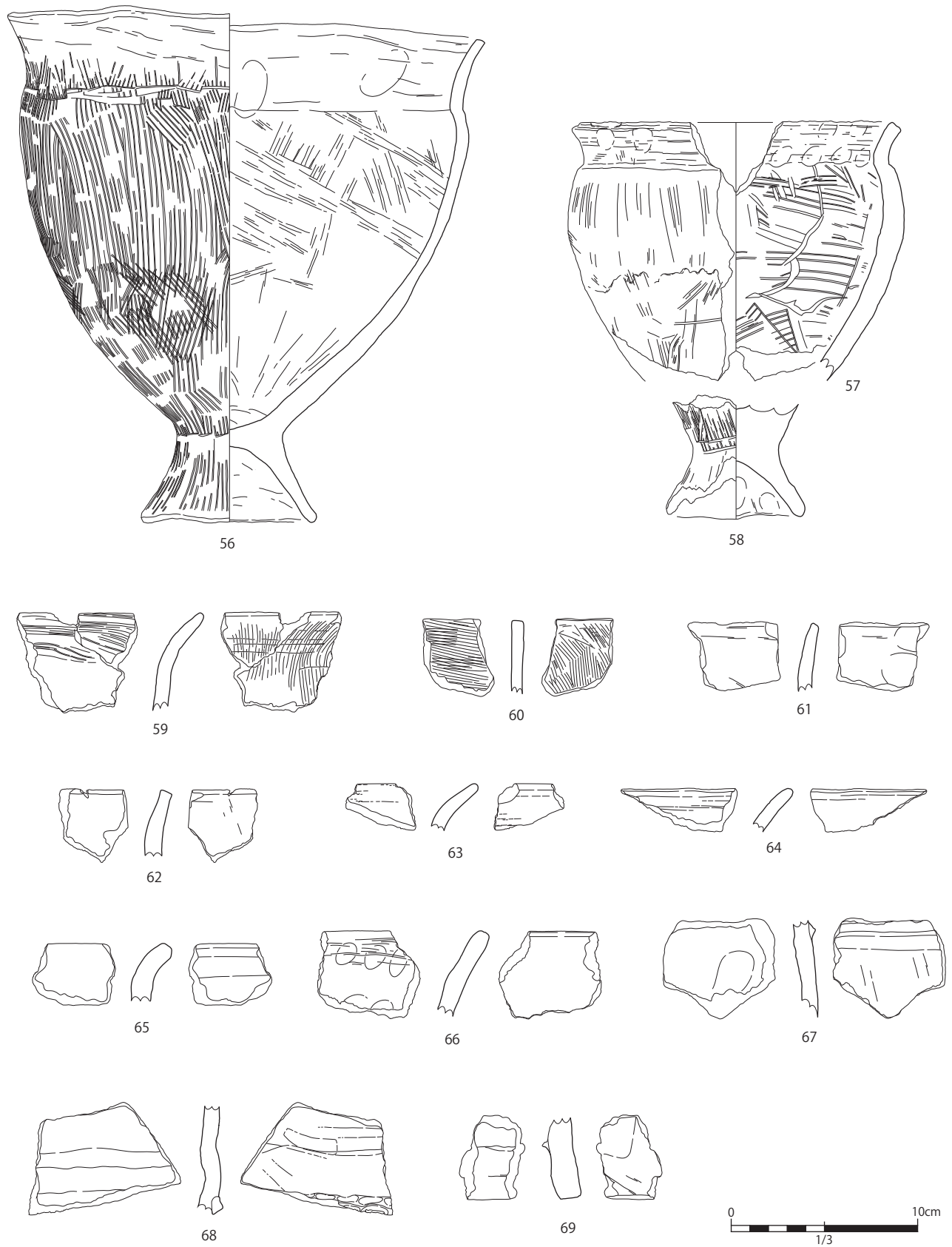
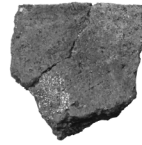


Fig.30 2011-1 4層出土遺物 (2)



56



62



63



64



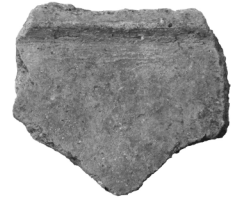
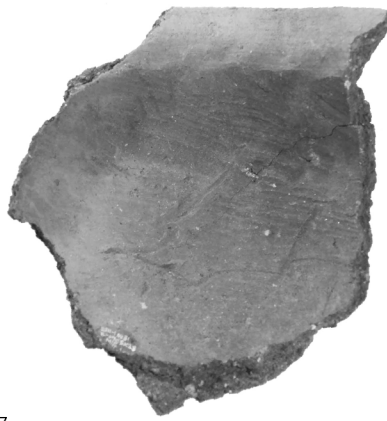
65



66



57



67



58



59



68



60



61



69

PL.15 2011-1 4層出土遺物 (2)

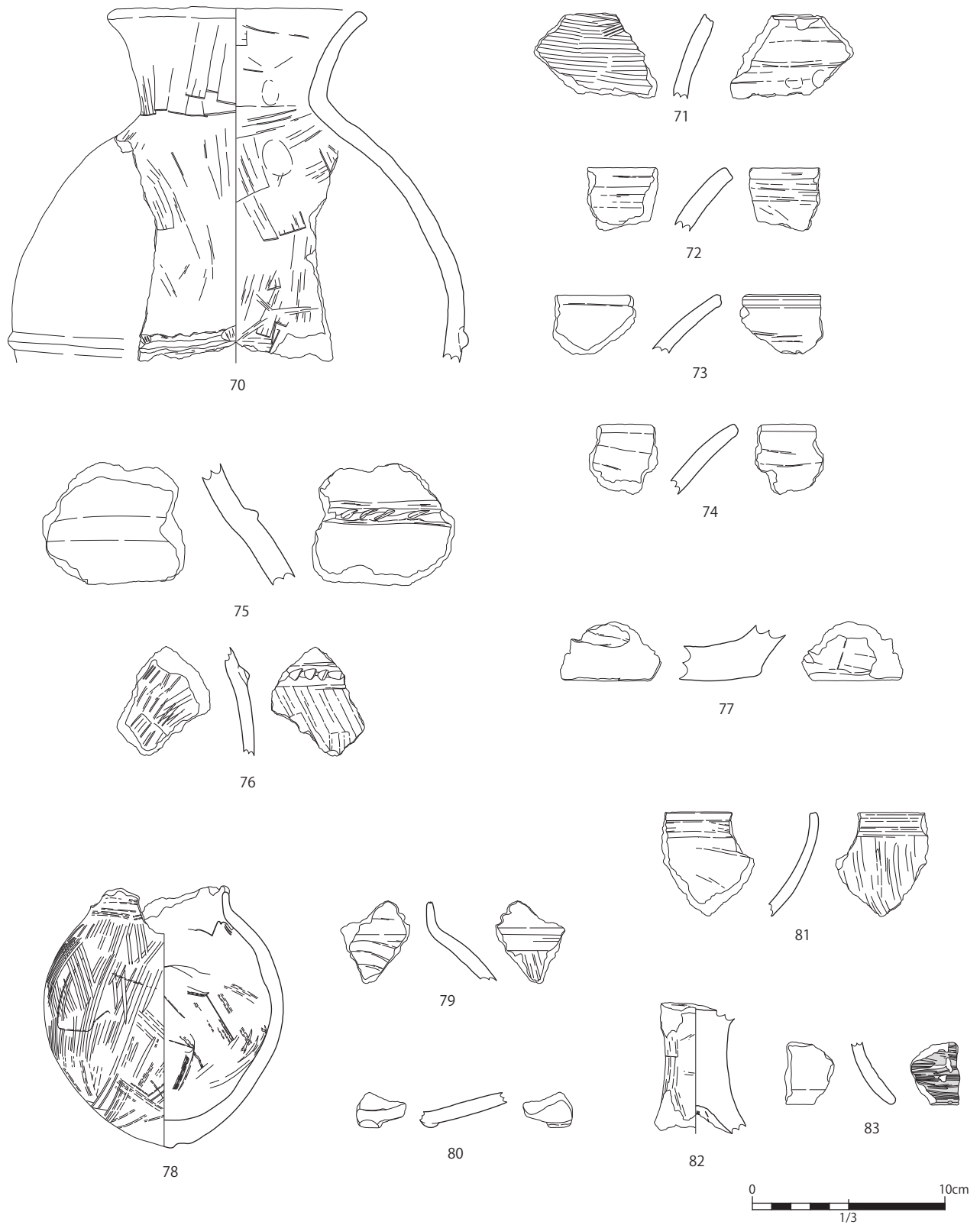
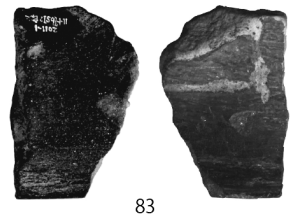
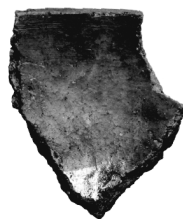
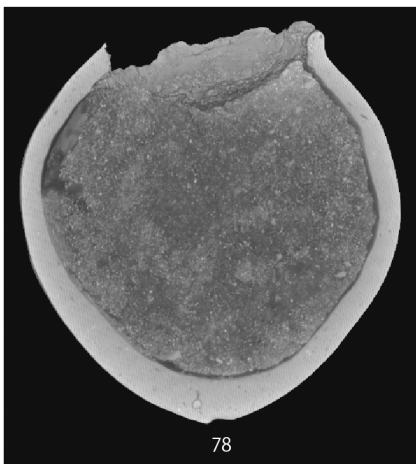
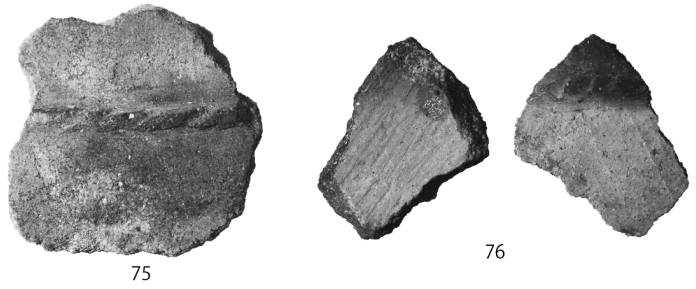
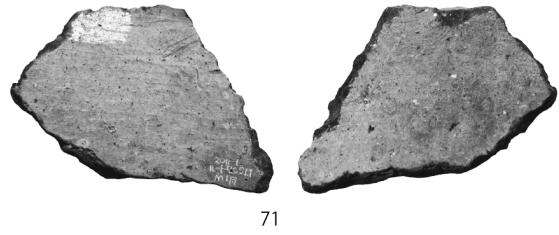


Fig.31 2011-1 4層出土遺物 (3)



PL.16 2011-1 4層出土遺物 (3)

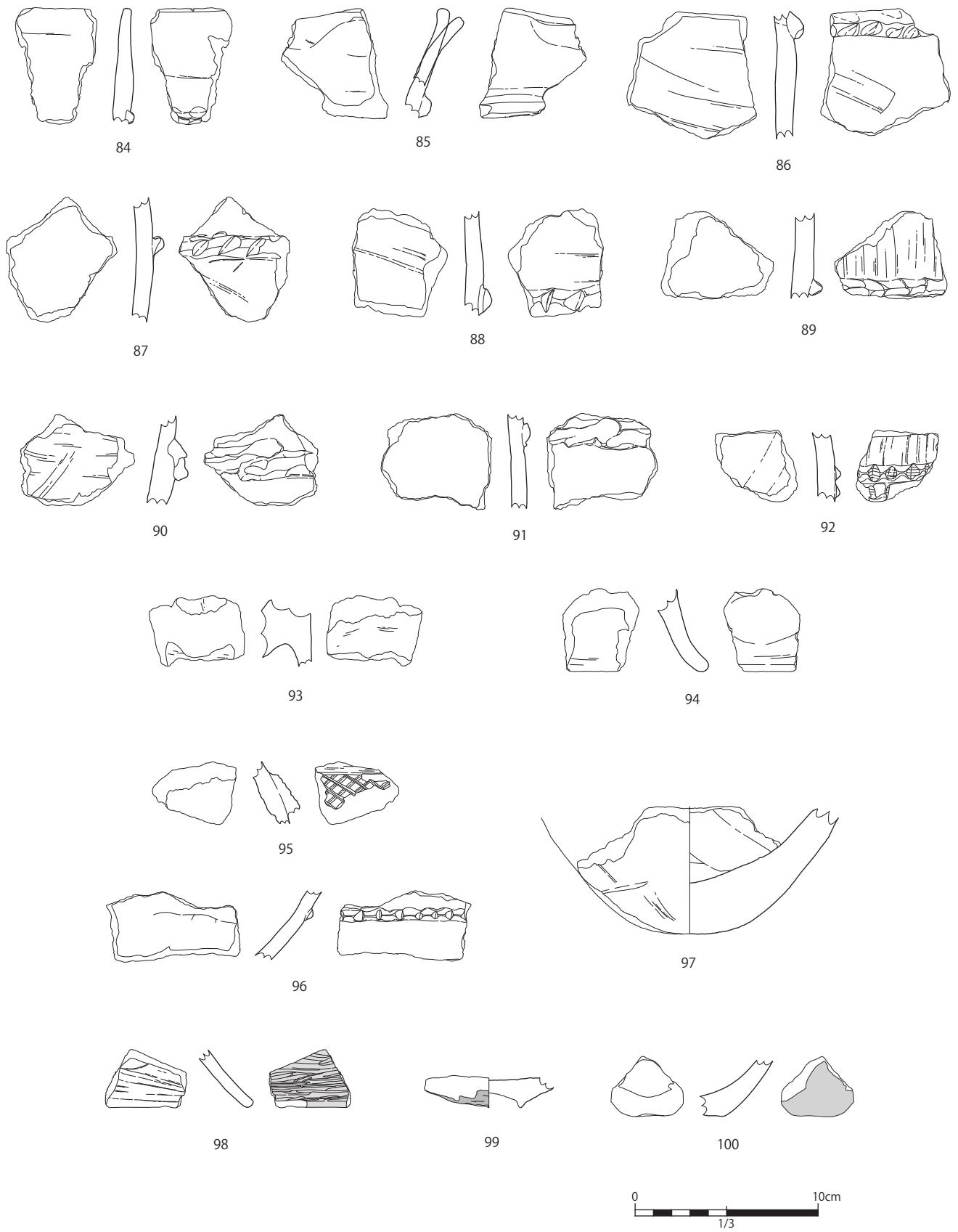
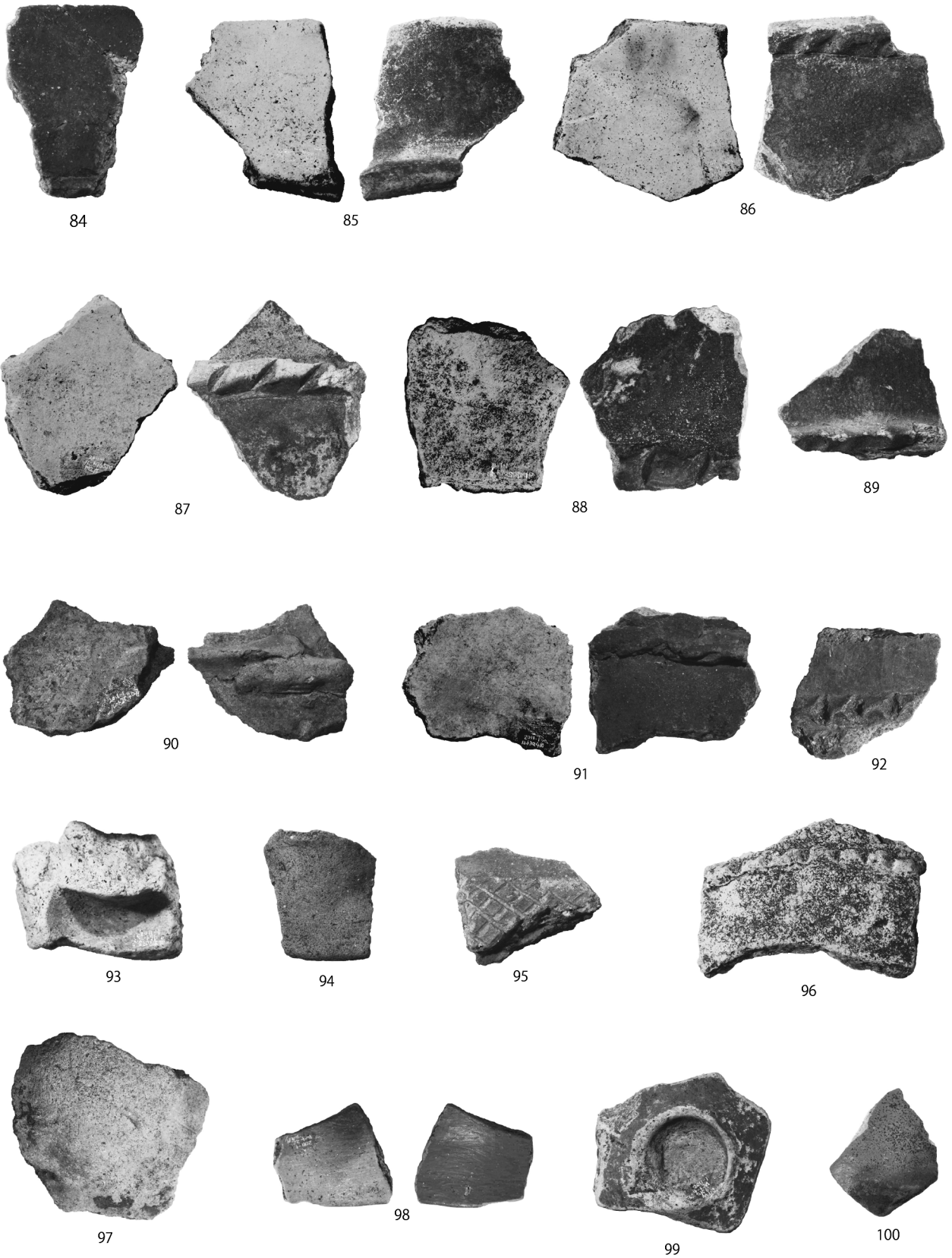


Fig.32 2011-1 4層出土遺物 (4)



PL.17 2011-1 4層出土遺物 (4)

78 はルート 7a 地点 P89 より出土した東原式の小壺 (古墳前期) である。頸が短く、外面にハケメを著しく残す。ほぼ完形に近い形で口縁部のみ打ち欠かれていたことから、意図的に埋納されたものと捉えている。底部に指頭大の凹部を形成する。79 は同様の小壺の口縁部であろう。80 も類似資料であるが、こちらは底部に小さな突起をもつものである。

81 は高坏の坏部と思われるもので、口唇部を平坦に面取りし、内外面にミガキを施す。口縁部内外は横位にナデられる。

82 は高坏の脚部である。81・82 ともに顔料は塗らないが、飛び散ったような赤色顔料が僅かに付着している。83 も同脚部であり、外面に赤色顔料が塗布され、横位にミガキが施される。

79 は SD3, 80 は SI01, 81 は P57, 83 は SI02 より出土した。

84～100 は古墳時代前半期でもその新段階に位置づけられると思われる資料や時期が判断できない資料を集めた。84～91・93・94 は甕, 92・95～97 は壺, 98・99 は高坏, 100 は埴であると思われる。

84 はナデによって口唇部に向かって先細りし、絡縄突帯をもつ資料である。

85 は口縁部が若干外側にたわむことから、注口をもつ甕である可能性がある。

86～88 は大型の突帯である。86・89 は絡縄突帯である。90・91 は雑な突帯の交差部分である。90 は三角突帯を互い違いにして貼付し、91 は最後に表面を押さえることで台形状にした突帯であるが、側面は調整されず雑なつくりとなっている。

93・94 は脚部である。93 は破損が著しいが、丸底状の底部の測部に脚台を貼付するタイプである。94 は中央部でやや折れ曲がるように開くものである。

92 は壺の同時刻みの二条刻目突帯である。95 は壺の幅広突帯で格子目文が描かれる。96 は一条刻目突帯である。97 は丸底を呈する厚手の底部で、比較的大型の壺の可能性がある。

98 は外面に赤色顔料を塗布し、横位のミガキを施す。99 は脚の外れた赤色顔料が塗布された坏部であるが、器面の摩滅が著しい。100 は底径の小さな底部である。赤色顔料を塗布し、ミガキが施される。埴の底部と考えられる。85・93・95 は SI02, 86 は SD1, 87 は SI02, 88 は SD3, 94 は SK2, 96 は P88, 99 は SK6 より出土している。

101～121 は土師器である。

101～103 は土師器甕であり、口唇部は丸みを帯び、101・102 は口縁部内面にヘラ削りを横位に施す。103 はナデのみで成形されている。104～113 は坏口縁部である。

107 は赤彩土器であり、内外面に赤色顔料を塗布し、ミガキを施す。114 は須恵器の蓋を模倣したと考えられる土師器であるが、口唇部は平坦にし、丸みを帯びる。115 は坏か碗の口縁部である。外面が黒色であり、ミガキが施される。成川式土器ではないと思われるため、ここに含めた。

116～119 は坏の底部である。116・117 は立ち上がり部をヘラ削りする。9世紀代の資料であろう。

120 は大ぶりの黒色土器 (内黒) 碗である。外面は反時計回りにヘラ削りが施され、高台部内外面は丁寧なナデられる。内面はミガキが施されている。

121 も大ぶりの土師器の底部を利用した円盤状加工品である。側面は磨り切りによって整形されている。側面から胎土を観察すると、橙色の胎土に薄い赤色の筋が数条みられることから、二つの色調の土を練り合わせて胎土を作成した可能性が考えられる。101・116 は SK9 より、102 は P47 より、103・110・111 は SK6 より、104・119・120 は SK2 より、105・108・109 は SK4 より、106 は SK7 より、107・112・115 は SK3 より、113・117・118 は SK10 より、114 は SK1 より、121 は SK5 よりそれぞれ出土している。

122～131 は須恵器である。

122 は高台付の坏である。123 は蓋, 124～130 は甕あるいは壺の肩部および胴部破片である。124 は頸部であり内面に同心円文当具痕が残る。125 は外面に格子目文叩き、内面に同心円文当具, 126 は外面に格子目文叩き、内面に平行線文当具, 127 は外面に格子目文叩き、内面に同心円文当具, 128～130 は外面に平行線文叩き、内面に同心円文当具痕が残る。130 の自然釉は釉調が緑釉様である。

131は坯の底部と思われるが、径がやや小さくなる。立ち上がりはケズリを丁寧にナデ消し、丸みを帯びる。126・129はSK1より、131はSK4より出土している。

以下は4層から出土した中世以降の遺物であるが、本来、4層に属さないものである。ほとんどがルート2aより出土している。攪乱が4層上面まで及んでいる部分で誤認したものであろう。ルート2cは5層まで攪乱が及んでいるため、紛れ込みの可能性が高い。

132は瓦質土器火鉢の口縁部で、口縁部直下に印花文、その下に連子文を連続させ巡らせる。133はいわゆる「今帰仁タイプ」とよばれる連江県浦口窯系の白磁である。見込は蛇の目釉剥ぎで、外面は高台まで釉薬は掛かっている。高台付は小さく、ハの字に開く形状である。134は龍泉窯系青磁のいわゆる劃花文碗の口縁部である。内面にヘラ切彫の文様が描かれているが構成は不明である。135は龍泉窯系碗の青磁碗高台である。高台内面は平坦で、付から高台内面まで施釉されない。136は同系の青磁菱花皿口縁部である。焼きが悪く、釉薬は白く濁り、文様も潰れてしまっている。137は漳州窯系の青花皿である。内湾口縁部である。内面を主体に文様が描かれる。

138は詳細不明であるが、青花瓶の一部ではないかと考えられる。外面に草花文が描かれる。139は肥前染付碗である。外面に文様が描かれるが構成は不明である。

140はいわゆる硫酸瓶の蓋と思われる資料である。ネジ内の孔は指で斜位にあげられている。上面とネジ部底面に砂目が残る。ネジ部は二枚合わせの型作りであり、中央部を横切るバリが残っている。

141・142は鉄製品である。

141は刀子の柄の部分と考えられる資料である。現存の長さ4.45cm、幅0.79cm、厚さ0.48cm、重さ4.8gを計る。幅古墳時代前半期の住居跡SI02の埋土2、床面よりやや上位のレベルから出土している。

142は雁又式の鉄鏃である。二股部の挟りが浅く、その内側に刃部が付けられている。一部刃部の欠損がみられるが、図上で復元すると、図右側が若干長くなる可能性がある。欠損による研ぎ直しなども考慮する必要があるのかもしれない。関を有し、茎は折れて短くなっている。現存の長さ7.53cm、幅3.46cm、茎の長さ2.15cm、関幅1.26cm、厚さ0.37cm、重さ16.4gを計る。古代土坑SK10の西壁際、埋土1の最下部より寝た状態で出土した。意図的に置かれた可能性もある。

143～151は石器および軽石製品である。用途不明のものが多い。

143は安山岩製の石器破片である。平坦面は摩滅しており、側縁部にいたるが、自然面のまま残された部分もある。作業台などが破損、剥離した石片かもしれない。ルート2bの4a層より出土。現存の重さ49.8g。

144～146はルート2cのP247埋土中より一括出土した軽石製品群である。部分的に削って整形した可能性がある。144は長さ9.65cm、幅6.6cm、厚さ3.23cm、重さ54.6gである。ほとんどが自然面と思われるが、一部斜面と浅い孔を有する。145は塊状を呈し、長さ10.5cm、幅8.8cm、厚さ5.8cm、重さ109.5gを計る。体部に径7mm、深さ2cm程度の孔を有する。146は三角板状を呈する。浅い凹面を有し、一部2.5cm幅の挟りがみられる。長さ13.2cm、幅7.9cm、厚さ3.4cm、重さ76.2gである。

147は古代土坑SK10より出土した軽石製品で、カッターナイフ状で刃部のような斜面が形成される。長さ8.8cm、幅4.2cm、厚さ2cm、重さ20.7gである。

148はルート7aP73埋土中より出土した。扁平で、片面に二つの孔があげられているようにもみえる。長さ8.5cm、幅5.1cm、厚さ1.7cm、重さ19.2gである。

149は三角形の製品で、一部に幅2cmほどの挟りがみられる。4つの平坦面をもつ。古代土坑SK9埋土2より出土している。長さ8.1cm、幅5.7cm、厚さ3.1cm、重さ39.5g。

150は岩塊状の製品で5箇所面をもつが、加工は4箇所面であろう。8.7×6.7×5.6cm、6.6gである。住居跡SI02の床面で出土した。

151は三角鏃状を呈する軽石製品で、古代土坑SK7埋土の篩がけ中に検出されたものである。長さ3.4cm、幅2.3cm、厚さ1.6cm、重さ1.7gを計る。

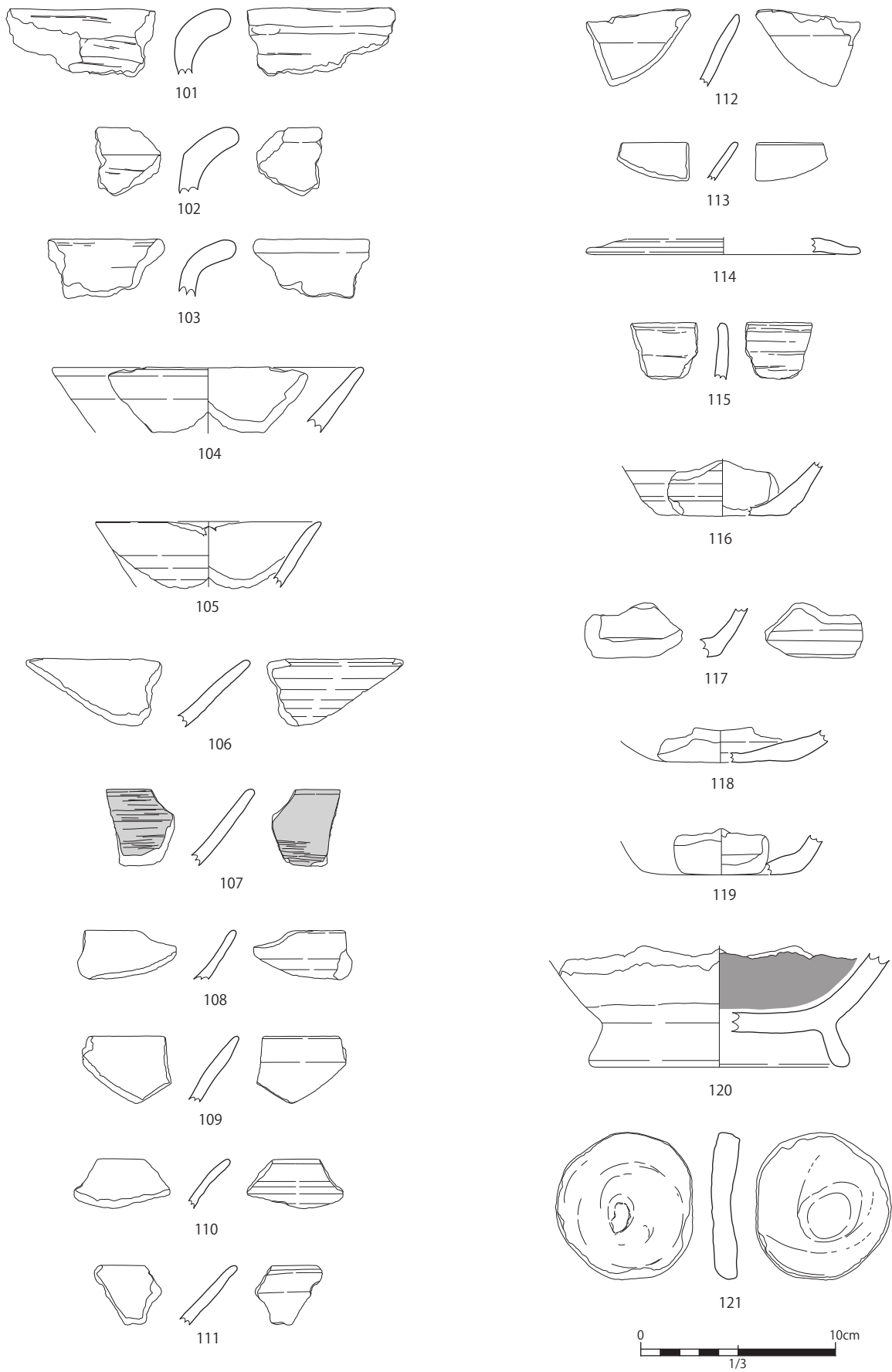
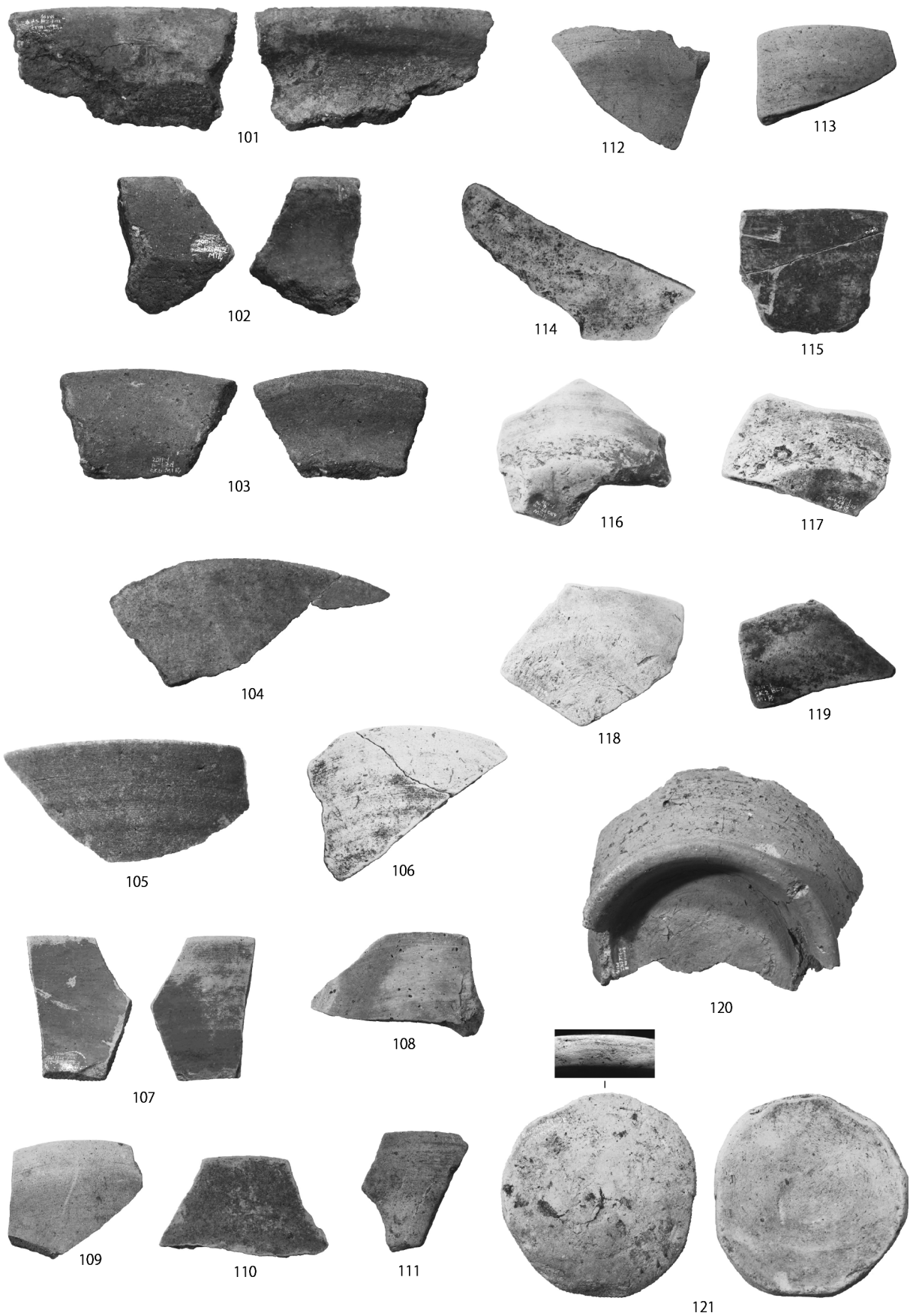


Fig.33 2011-1 4層出土遺物 (5)



PL.18 2011-1 4層出土遺物 (5)

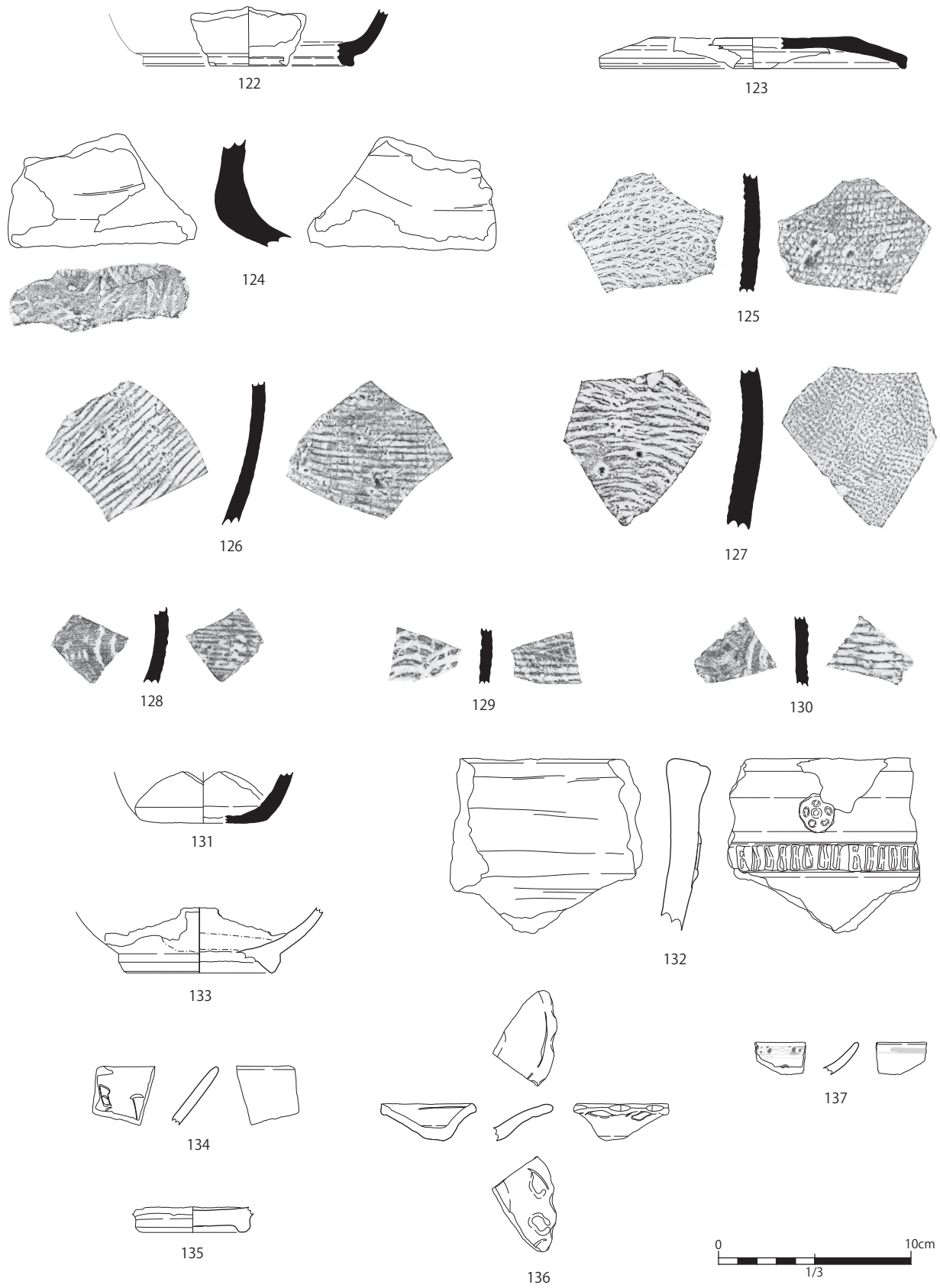
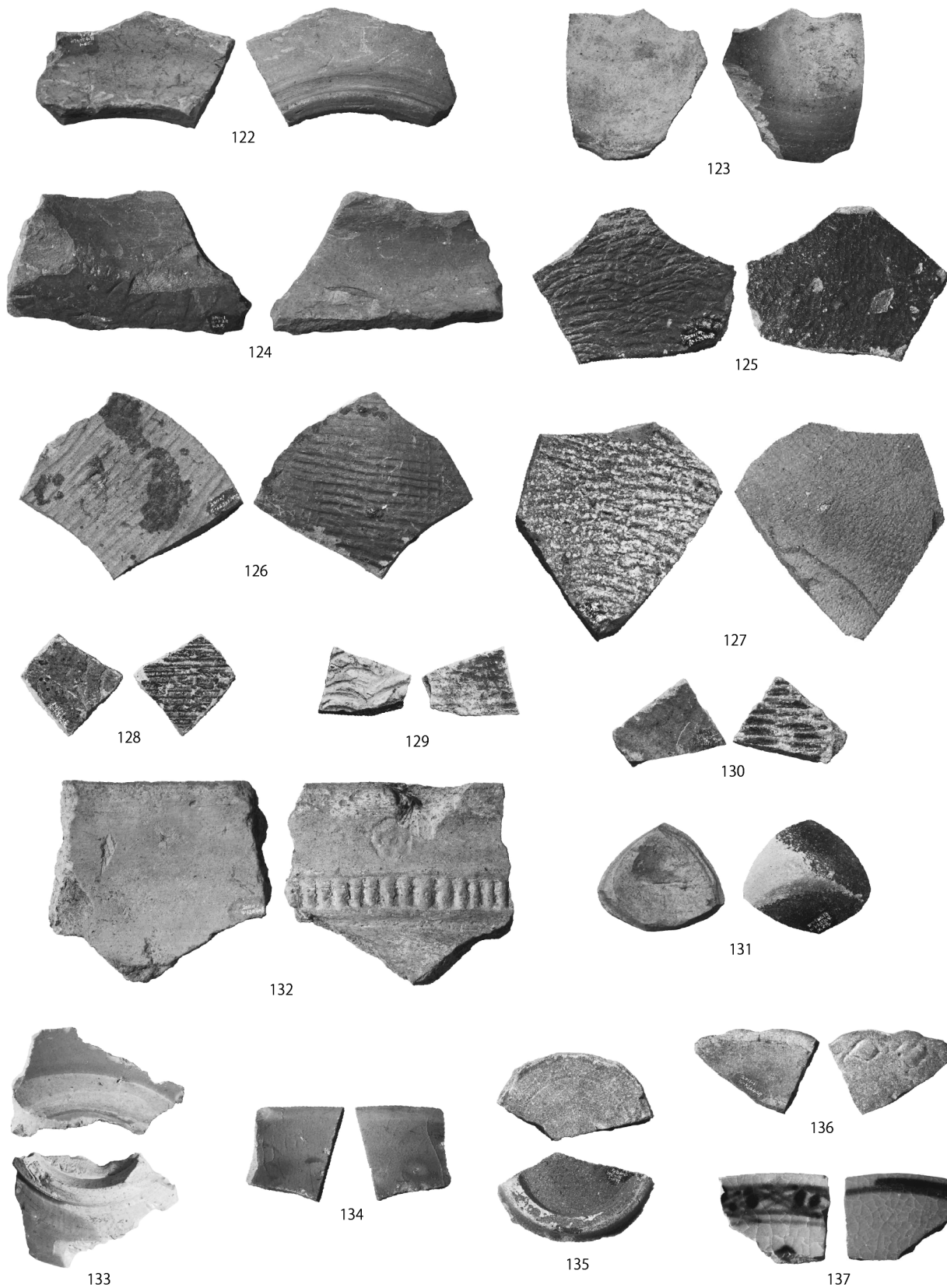


Fig.34 2011-1 4層出土遺物（6）



PL.19 2011-1 4層出土遺物 (6)

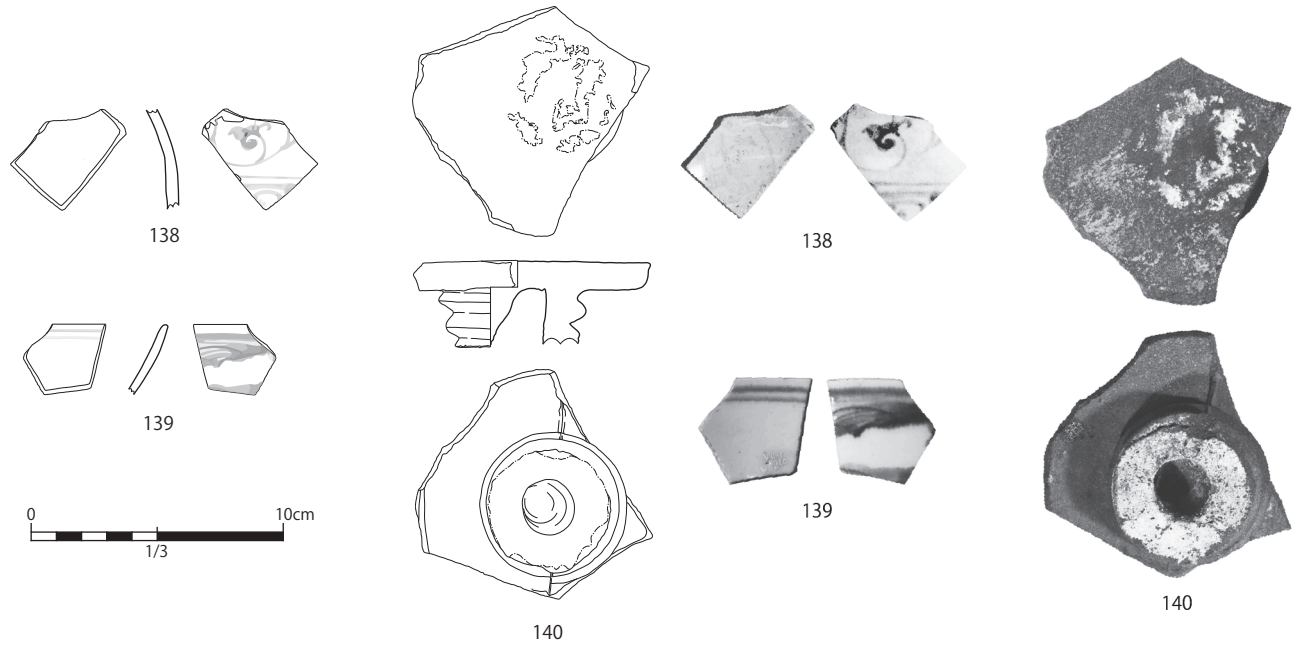


Fig.35 2011-1 4層出土遺物 (7)

PL.20 2011-1 4層出土遺物 (7)

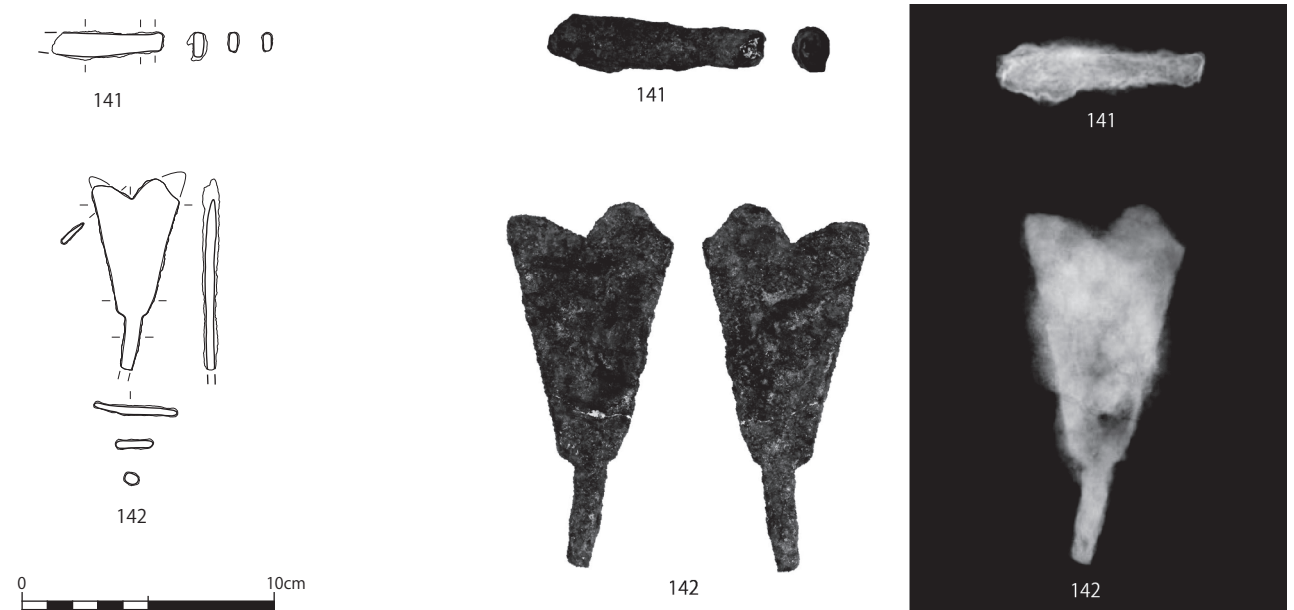


Fig.36 2011-1 4層出土遺物 (10)

PL.21 2011-1 4層出土遺物 (10)

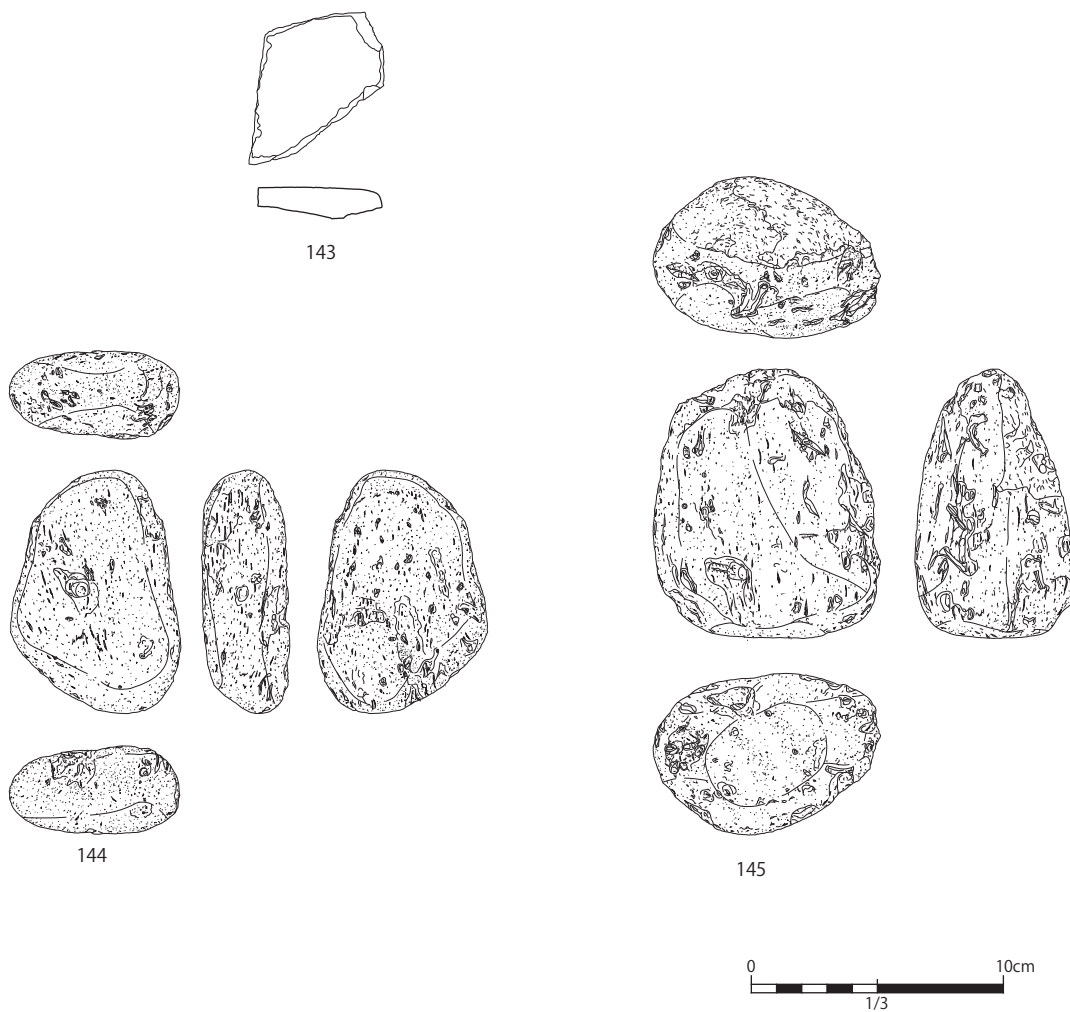


Fig.37 2011-1 4層出土遺物 (8)



PL.22 2011-1 4層出土遺物 (8)

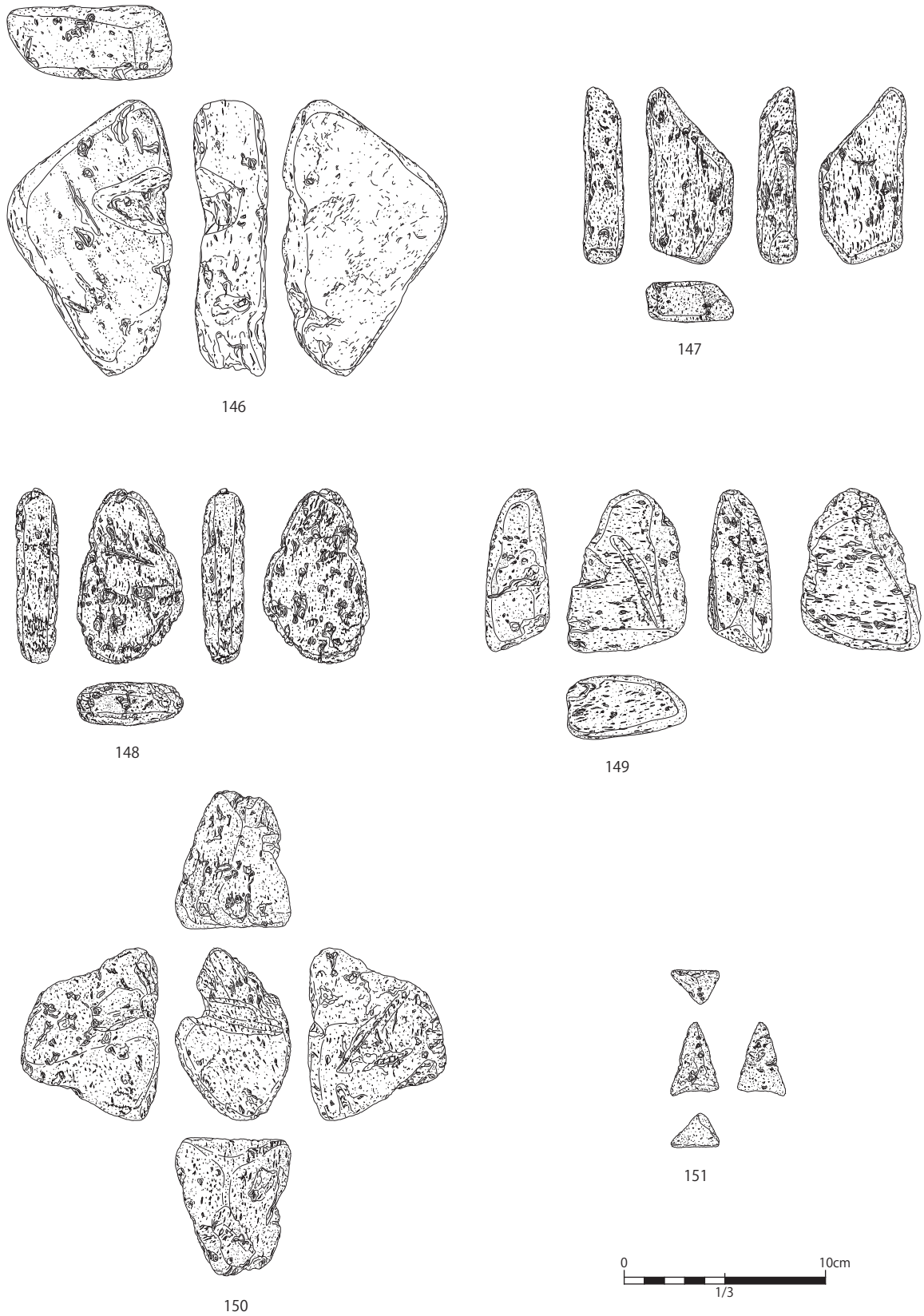
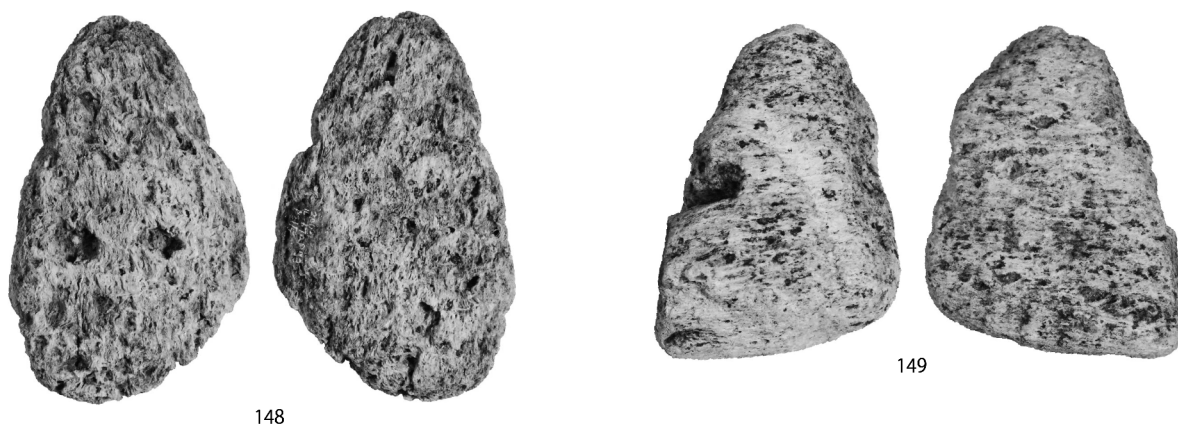


Fig.38 2011-1 4層出土遺物 (9)



Tab.6-1 土器・陶磁器観察 (1)

番号	地点・層位	種別	器種	部位	色調	混和材	備考
12	試掘 H地点・3層	成川式	ミニチュア	脚	外:にぶい黄褐色10YR7/3, 内:灰白色2.5Y7/1, 肉:淡黄色2.5YR8/3	石英, 黒色粒, 角閃石	SI02埋土の可能性あり 外:ヘラナデーナデ 内:ナデ 古墳時代
13	ルート2・攪乱	瀬戸内系弥生土器	甕	口	外:オリーブ褐色2.5Y4/4, 内:暗灰黄色2.5Y4/2, 肉:オリーブ褐色2.5Y4/4	石英, 黒色粒	内外:ナデ 弥生後期前半
14	ルート2・攪乱	弥生土器	壺	底	外:にぶい褐色7.5YR5/3, 内:橙色7.5YR6/6, 肉:にぶい褐色7.5YR5/3	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ナデ 内:ヘラナデーナデ 底径4.7cm 弥生後期
15	ルート7b・表土	弥生土器	甕	口	外:明黄褐色10YR6/6, 内:にぶい褐色7.5YR7/4, 肉:褐灰色7.5YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ハケメ→ナデ 内:ヘラナデーナデ 弥生後期後半
16	ルート7c・表土	成川式	甕	口	外:褐灰色7.5YR4/1, 内:にぶい黄褐色10YR7/3, 肉:灰黄褐色10YR5/2	石英, 黒色粒, 角閃石	内外:ヘラナデーナデ 外:スス付着 古墳時代
17	ルート7c・表土	成川式	壺	突帯	外:にぶい黄褐色10YR6/4, 内:にぶい褐色7.5YR7/4, 肉:褐灰色7.5YR4/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	一条刻目突帯 外:ヘラナデーナデ 内:ナデ 突帯上にイネ圧痕 古墳時代
18	ルート2・表土	成川式	高坏	脚	外:にぶい黄褐色10YR7/3, 内:にぶい黄褐色10YR7/2, 肉:褐灰色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ヘラナデーナデ 内:ナデ 古墳時代
19	ルート2b・表土	土師器	坏	口	外:橙色7.5YR6/6, 内:褐色7.5YR6/6, 肉:褐色7.5YR6/6	石英, 黒色粒	古代
20	ルート2・壁面清掃	黒色土器(内黒)	椀	高台	外:浅黄褐色10YR8/3, 内:黒色10YR2/1, 肉:褐灰色10YR4/1	石英, 黒色粒	内:ミガキ 古代:9C
21	ルート5・表土	須恵器	坏	高台	外:灰色N5/, 内:灰色N5/, 肉:灰色N4/	石英	底径(4.2cm) 古代:8C後半-9C前半
22	ルート1・壁面清掃	須恵器	甕か壺	胴	外:灰褐色7.5YR5/2, 内:にぶい黄褐色10YR6/3, 肉:にぶい赤褐色5YR5/3	石英	外:格子目文叩→平行線文ナデ 内:同心円文当具
23	ルート2・壁面清掃	須恵器	甕か壺	胴	外:灰色7.5Y6/1, 内:灰白色5Y7/1, 肉:灰色5Y6/1	石英, 黒色粒	外:格子目文叩 内:同心円文当具
24	ルート7b・表土	須恵器	甕か壺	胴	外:オリーブ黒色5Y3/1, 内:灰色5Y6/1, 肉:灰黄褐色10Y5/1	石英	外:平行線文叩 内:同心円文当具
25	ルート7b・表土	薩摩焼・苗代川系	円盤状加工品	完形	外:暗褐色7.5YR3/2, 内:浅黄色5Y7/3, 橙色2.5YR6/8	石英, 黒色粒	近世
26	ルート6・表土	肥前・波佐見焼	碗	口	素地:灰白色5Y8/1, 釉薬:緑がかつた透明釉, 格子目文:オリーブ灰色5Y5/1		外:格子目文 近世:19C
27	ルート2・3a層	成川式	甕	突帯	外:にぶい黄褐色10YR5/3, 内:にぶい黄褐色10YR6/4, 肉:にぶい褐色7.5YR6/4	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	略台形突帯 内外:ヘラナデーナデ 古墳時代
28	ルート2・3a層	成川式	壺	突帯	外:灰色7.5Y5/1, 内:浅黄褐色10YR8/3, 肉:褐灰色10YR6/1	石英, 黒色粒, 角閃石	竹管文 古墳時代
29	ルート2・3a層	焙烙	鍋	把手	外:にぶい黄褐色10YR5/3, 内:黄灰色2.5Y4/1, 肉:黄灰色2.5Y4/1	石英, 黒色粒	ナデ 近世
31	ルート2a・3b層	成川式	甕	口	外:オリーブ褐色2.5Y4/4, 内:にぶい黄褐色10YR7/4, 肉:褐灰色7.5YR4/1	石英, 黒色粒, 角閃石	内外:ナデ 古墳時代
32	ルート2b・3b層	成川式	甕	突帯	外:浅黄褐色10YR8/3, 内:灰白色10YR7/1, 肉:灰白色10YR7/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	絡縄突帯 内外:ナデ 古墳時代
33	ルート2d・3b層	成川式	甕	脚	脚内側:褐色5YR6/6, 外:灰黄褐色10YR5/2, 内:にぶい黄色2.5Y6/3, 肉:灰黄色2.5Y6/2	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ヘラナデーナデ 内:ナデ 土師質 古墳時代
34	ルート2a・3b層	土師器	椀	高台	外:にぶい黄褐色10YR7/4, 内:浅黄褐色10YR8/3, 肉:浅黄褐色10YR8/4	石英, 黒色粒, 角閃石	底径(6.5cm) 古代
35	ルート2a・3b層	黒色土器(内黒)	椀	高台	外:黄褐色10YR5/6, 内:黒5Y2/1, 肉:明黄褐色10YR6/8	石英, 黒色粒, 角閃石	内:ミガキ 底径(8.5cm) 古代:9C
36	ルート2・3b層	須恵器	坏	口	外:灰黄色2.5Y7/2, 内:灰黄色2.5Y7/2, 肉:灰黄色2.5Y6/2	黒色粒	古代:8C後半-9C前半
37	ルート2a・3b層	須恵器	甕か壺	胴	外:赤灰色2.5YR5/1, 内:黄灰色2.5Y6/1, 肉:黄灰色2.5Y6/1	黒色粒	外:平行線文叩 内:平行線文当具
38	ルート2b・3b層	須恵器	甕か壺	胴	外:浅黄褐色10YR8/3, 内:灰白色2.5Y8/2, 肉:灰白色2.5Y8/1	石英, 黒色粒, 角閃石	酸化焼成 外:格子目文叩 内:車輪文当具
39	ルート2a・3b層	須恵器	蓋	口	外:にぶい黄色2.5Y6/3, 内:にぶい黄褐色10YR7/4, 肉:にぶい黄褐色10YR7/4	石英, 黒色粒, 角閃石	酸化焼成 古代:8C後半-9C前半
40	ルート2d・3b層	瓦質土器?	火鉢?	底	外:にぶい褐色7.5YR6/4, 内:にぶい黄褐色10YR6/3, 肉:にぶい黄褐色10YR7/4	石英, 黒色粒	底部から3cm上部に一条突帯 外:ナデ 内:ハケメ 中世?
41	ルート2a・3b層	備前焼	播鉢	口	外:灰色5Y5/1, 内:灰色5Y4/1, 肉:にぶい赤褐色5YR5/3	石英, 黒色粒	中世:13C末-15C初
42	ルート2a・3b層	陶器	碗	口	素地:にぶい褐色7.5YR7/3, 釉:暗灰黄色がかつた釉	石英	不詳
43	ルート2a・3b層	漳州窯系青花	皿	高台	素地:灰白色N8/, 釉:灰白色がかつた透明釉, 文様:オリーブ灰色5Y5/1		底径7.2cm 人物文 16C後半-17C前半
44	ルート2a・3b層	青花	碗	高台	素地:灰色N8/, 釉:明青灰色がかつた透明釉, 文様:暗青灰5B3/1		外:圏線 内:構成不明 内底面:構成不明 16C後半-17前半
47	ルート7c・4a層	曾畑式	深鉢	胴	外:明褐色7.5YR5/6, 内:にぶい黄色2.5Y6/3, 肉:褐灰色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外:ナデ 縄文前期
48	ルート7c・4b層	曾畑式	深鉢	胴	外:明褐色7.5YR5/6, 内:にぶい黄色2.5Y6/3, 肉:褐灰色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ナデ 内:貝殻条痕→ナデ 縄文前期
49	ルート7c・4b層	曾畑式	深鉢	胴	外:明褐色7.5YR5/6, 内:にぶい黄色2.5Y6/3, 肉:褐灰色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	内外:ナデ 縄文前期
50	ルート7c・4c層	曾畑式	深鉢	胴	外:褐色7.5YR6/6, 内:褐色5YR6/6, 肉:褐色7.5YR6/6	石英, 黒色粒, 角閃石	内外:ナデ 外:スス付着 縄文前期
51	ルート7c・P171・M1層	曾畑式	深鉢	胴	外:黄灰色2.5Y4/1, 内:にぶい黄褐色10YR6/3, 肉:黄褐色2.5YR5/3	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ナデ 内:貝殻条痕→ナデ 外:スス付着 縄文前期
52	ルート2a・4a層	弥生土器	小甕	底	外:にぶい褐色7.5YR5/4, 内:にぶい褐色7.5YR6/4, 肉:灰色5Y4/1	石英, 黒色粒, 角閃石	底径3.5cm 内外:ヘラナデーナデ 弥生時代
53	ルート2d・SX01・M1層	弥生土器	大甕	突帯	外:にぶい褐色7.5YR6/3, 内:褐色7.5Y6/6, 肉:暗灰黄色2.5Y4/2	石英, 黒色粒, 角閃石	内外:ハケメ→ナデ 弥生中-後期
54	ルート1・SD1・M1層	瀬戸内系弥生土器	甕	口	外:灰黄褐色10YR5/2, 内:にぶい褐色7.5YR6/4, 肉:灰黄褐色10YR5/2	石英, 黒色粒, 角閃石, 黒雲母	内線文 内外面:ナデ 弥生後期前半
55	ルート2d・SK2・BLT・M1層	瀬戸内系弥生土器	壺	胴	外:にぶい褐色7.5YR6/4, 内:にぶい黄褐色10YR7/4, 肉:にぶい褐色7.5YR6/4	石英, 黒色粒, 角閃石	籬状文(幅8.5mm) 表:ナデ・ミガキ 内:ナデ 弥生中-後期
56	ルート7c・P290・M1層	東原式	甕	完形	外:浅黄褐色7.5YR8/4, 内:浅黄褐色7.5YR8/3, 一部黒斑あり, 肉:灰白色7.5YR8/2	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	口径25.6cm 器高27.7cm 底径9.6cm 内外:ハケメ→ナデ 古墳前期
57	ルート7c・P290・M1層	東原式	小甕	口	外:にぶい黄褐色10YR5/3, 内:褐色7.5YR6/6, 肉:灰黄褐色10YR5/2	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	口径(17.6cm) 内外:ハケメ→ナデ 古墳前期
58	ルート7c・P290・M1層	東原式	甕	脚	外:にぶい黄褐色10YR6/4, 内:灰黄褐色10YR5/2, 肉:明褐色7.5YR5/6	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	底径(7.6cm) 内外:ハケメ→ナデ 古墳前期

Tab.6-2 土器・陶磁器観察 (2)

番号	地点・層位	種別	器種	部位	色調	混和材	備考
59	ルート7a・4a層	東原式	甕	口	外: 橙色7.5YR6/6, 内: にぶい黄褐色10YR5/3, 肉: 褐色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	内外: ハケメ→ナデ 古墳前期
60	ルート2d・SK1・BLT・M1層	成川式	甕	口	外: にぶい黄褐色10YR7/4, 内: にぶい黄褐色10YR7/4, 肉: にぶい黄褐色10YR7/4	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ハケメ→ナデ 古墳時代
61	ルート7c・4b層	成川式	甕	口	外: にぶい 橙色7.5YR6/4, 内: にぶい黄褐色10YR7/3, 肉: 褐色10YR4/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ナデ 古墳時代
62	ルート6・4層	成川式	甕	口	外: 橙色7.5YR6/6, 内: 浅黄色2.5Y7/3, 肉: にぶい褐色7.5YR5/4	石英, 黒色粒, 角閃石	内外: ヘラナデ→ナデ 古墳時代
63	ルート7b・P228・M1層	成川式	甕	口	外: にぶい黄褐色10YR7/3, 内: 明黄褐色10YR7/6, 肉: 浅黄褐色10YR8/4	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	古墳時代 内外: ナデ 外: スス付着 土師質 古墳時代
64	ルート7c・SI01・M1層	成川式	甕	口	外: 褐色7.5YR4/3, 内: にぶい 橙色7.5YR6/4, 肉: にぶい 橙色7.5YR6/4	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ナデ 古墳時代
65	ルート2c・4a層	成川式	甕	口	外: にぶい黄褐色10YR6/4, 内: にぶい 橙色7.5YR7/4, 肉: にぶい 橙色7.5YR7/4	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ナデ 古墳時代
66	ルート2b・4a層	成川式	甕	口	外: 灰黄褐色10YR4/2, 内: 灰黄色2.5Y7/2, 肉: 灰褐色7.5YR5/2	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ナデ 外: スス付着 古墳時代
67	ルート2d・SK9・M1層	成川式	甕	突帯	外: にぶい黄褐色10YR6/4, 内: にぶい黄褐色7.3YR7/3, 肉: 褐色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	一条突帯 外: ヘラナデ→ナデ 内: 外皮剥落 古墳時代
68	ルート7b・SI02・M2層	成川式	甕	突帯	外: 黄褐色2.5Y4/1, 内: 浅黄褐色10YR8/3, 肉: 浅黄褐色10YR8/3	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	絡縄突帯 内外: ヘラナデ→ナデ 土師質 外: スス付着 古墳時代
69	ルート3a・4層	成川式	甕	脚	外: にぶい 褐色7.5YR5/4, 内: にぶい 褐色7.5YR5/3, 肉: 赤褐色5YR4/6	石英, 黒色粒, 角閃石	内外: ナデ 底: 磨り切り 古墳時代
70	ルート7c・P290・M1層	東原式	壺	口-胴	外: にぶい 褐色7.5YR7/3, 内: にぶい黄褐色10YR6/4, 肉: 黄褐色2.5Y5/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	口径(13.5cm) 一条突帯 内外: ハケメ→ナデ 古墳前期
71	ルート7c・SI01・M1層	成川式	壺	口	外: 灰黄色2.5Y6/2, 内: にぶい 黄色2.5Y6/3, 肉: 褐色10YR4/1	石英, 黒色粒, 角閃石	外: ナデ 内: ハケメ→ナデ 古墳時代
72	ルート7b・4a層	成川式	壺	口	外: にぶい黄褐色10YR6/3, 内: にぶい黄褐色10YR6/4, 肉: 灰黄褐色10YR6/2	石英, 黒色粒, 角閃石	内外: ナデ 古墳時代
73	ルート7b・SK24・M1層	成川式	壺	口	外: 明黄褐色10YR7/6, 内: 浅黄褐色10YR8/4, 肉: 浅黄褐色7.5YR8/4	石英, 黒色粒, 角閃石	内外: ヘラナデ→ナデ 古墳時代
74	ルート2c・4a層	成川式	壺	口	外: 褐色7.5YR6/6, 内: 明褐色7.5YR5/6, 肉: 褐色7.5YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	内外: ナデ 古墳時代
75	ルート2a・4a層	成川式	壺	突帯	外: 黄褐色2.5Y5/3, 内: にぶい 褐色7.5YR6/4, 肉: 褐色10YR6/1	石英, 黒色粒, 角閃石	一条刻目突帯 内外: ヘラナデ→ナデ 古墳時代
76	ルート5・4層	中津野式-東原式	壺	突帯	外: にぶい 褐色7.5YR6/4, 内: にぶい黄褐色10YR7/3, 肉: 黄褐色2.5YR4/1	石英, 黒色粒, 角閃石	一条刻目突帯 内外: ハケメ→ナデ 古墳時代
77	ルート7a・SD3・4a層	成川式	壺	底	外: にぶい黄褐色10YR5/3, 内: にぶい黄褐色10YR6/4, 肉: 灰黄褐色10YR6/2	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ヘラナデ→ナデ 古墳時代
78	ルート7a・P89・M1層	東原式	小壺	ほぼ完形	外: 黄褐色10YR5/6, 内: にぶい黄褐色10YR5/4, 肉: 黄褐色2.5Y4/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	ほぼ完形 残存高13.6cm 胴最大径12.3cm 底面に小さな凹部 内外: ハケメ→ナデ 古墳前期
79	ルート7a・SD3・M1層	東原式	小壺	口	外: 褐色7.5YR6/6, 内: 褐色7.5YR6/6, 肉: 褐色7.5YR7/6	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	外: ヘラナデ→ハケメ→ナデ 内: ナデ 古墳時代
80	ルート7c・SI01・M1層	東原式	小壺	底	外: 黄褐色2.5Y4/1, 内: 浅黄褐色10YR8/4, 肉: 褐色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	底部に突起 内外: ヘラナデ→ナデ 古墳前期
81	ルート7a・P57・M1層	成川式	高坏	口	外: 明褐色7.5YR5/6, 内: にぶい 褐色7.5YR5/4, 肉: にぶい黄褐色10YR5/3	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外面: ミガキ 古墳時代
82	ルート7b・4a層	成川式	高坏	脚	外: 浅黄褐色10YR8/3, 内: にぶい黄褐色10YR7/3, 肉: 黄褐色2.5Y5/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ヘラナデ→ナデ 古墳時代
83	ルート7b・SI02・M2層	成川式	高坏	脚	外: 褐色7.5YR4/3, 内: 褐色10YR4/1, 肉: 褐色10YR4/1	石英, 黒色粒, 角閃石	外: 赤色顔料 外: ミガキ 内: ヘラナデ 古墳時代
84	ルート7c・4b層	成川式	甕	口	外: 黒褐色2.5Y3/1, 内: にぶい黄褐色10YR7/4, 肉: 灰黄褐色10YR6/2	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	絡縄突帯 内外: ナデ 古墳時代中期
85	ルート7b・SI02・M2層	成川式	甕	口	外: 褐色10YR4/1, 内: 浅黄色2.5Y8/3, 肉: 褐色10YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	注? 内外: ナデ 外: スス付着 古墳時代中期
86	ルート1・SD1・M1層	成川式	甕	突帯	外: 黒褐色2.5Y3/1, 内: 浅黄色2.5Y7/3, 肉: 浅黄褐色10YR8/4	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	絡縄突帯(上部はナデられ凹部が消える) 外: ヘラナデ→ナデ 内: ハケメ→ナデ 外: スス付着 古墳時代
87	ルート7b・SI02・M2層	成川式	甕	突帯	外: 褐色10YR4/1, 内: 明黄褐色10YR7/6, 肉: 灰黄色2.5Y7/2	石英, 黒色粒, 角閃石	一条刻目突帯 外: ヘラナデ→ナデ 内: ナデ 外: スス付着 古墳時代
88	ルート7a・SD3・M1層	成川式	甕	突帯	外: 黒褐色10YR3/2, 内: にぶい黄褐色10YR7/3, 肉: にぶい黄褐色10YR7/3	石英, 黒色粒, 角閃石	一条刻目突帯 外: ナデ 内: ヘラナデ→ナデ 外: スス付着 古墳時代
89	ルート2c・4a層	成川式	甕	突帯	外: 黒色10YR2/1, 内: にぶい黄褐色10YR7/6, 肉: 灰黄褐色10YR6/2	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	絡縄突帯 外: ハケメ→ナデ 内: ナデ 外: スス付着 古墳時代
90	ルート2c・4a層	成川式	甕	突帯	外: にぶい黄褐色10YR5/4, 内: にぶい 褐色7.5YR6/4, 肉: 褐色7.5YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	一条突帯(交差部) 外: ナデ 内: ハケメ→ナデ 古墳時代
91	ルート3a・4層	成川式	甕	突帯	外: 暗褐色10YR3/3, 内: 黄褐色2.5Y5/3, 肉: にぶい黄褐色10YR5/3	石英, 黒色粒, 角閃石	一条突帯(交差部) 内外: ナデ 古墳時代
92	ルート7a・4a層	成川式	壺?	突帯	外: にぶい赤褐色5YR5/4, 内: にぶい赤褐色5YR5/4, 肉: 褐色7.5YR6/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	二条刻目突帯(同時刻目) 外: ハケメ→ナデ 内: ナデ 古墳時代
93	ルート7b・SI02・床下	成川式	甕	脚	外: にぶい黄褐色10YR7/4, 内: 黒褐色2.5Y3/1, 肉: 浅黄色2.5Y8/3	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ナデ 古墳時代
94	ルート2d・SK2・M1層	成川式	甕	脚	外: 明黄褐色10YR6/6, 内: 黄褐色10YR5/6, 肉: 褐色7.5YR7/6	石英, 黒色粒, 角閃石	内外: ヘラナデ→ナデ 古墳時代
95	ルート7b・SI02・M2層	成川式	壺	突帯	外: にぶい黄褐色10YR5/4, 内: にぶい黄褐色10YR5/4, 肉: 黄褐色2.5Y5/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	格子目文 外: ナデ 内: 外皮剥落 古墳時代
96	ルート7a・P88・M1層	成川式	壺	突帯	外: にぶい黄褐色10YR7/4, 内: にぶい黄褐色10YR7/2, 肉: 褐色10YR4/1	石英, 黒色粒, 角閃石	一条刻目突帯 内外: ナデ 古墳時代
97	ルート2a・4a層	成川式	壺	底	外: 浅黄褐色10YR8/4, 内: にぶい 褐色7.5YR6/4, 肉: にぶい黄褐色10YR7/4	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	内外: ハケメ→ナデ 古墳時代
98	ルート2c・4a層	成川式	高坏	脚	外: 明赤褐色2.5YR5/8(顔料), 内: 褐色5YR6/8, 肉: 褐色7.5YR5/1	石英, 黒色粒, 角閃石	外: 赤色顔料 外: ミガキ 内: ヘラナデ 古墳時代
99	ルート2d・SK6・M1層	成川式	高坏	脚-脚接合部	外: 赤褐色2.5YR4/6(顔料), 内: にぶい黄褐色10YR7/4, 肉: 明褐色7.5YR7/1	石英, 黒色粒, 角閃石, 赤色粒	外: 赤色顔料 古墳時代
100	ルート2c・4a層	成川式	罎	底	外: 赤褐色2.5YR4/8(顔料), 内: 黒褐色2.5Y3/1, 肉: 黒褐色2.5Y3/1	石英, 黒色粒, 角閃石	外: 赤色顔料 外: ミガキ 内: ナデ 古墳時代後半

Tab.6-3 土器・陶磁器観察 (3)

番号	地点・層位	種別	器種	部位	色調	混和材	備考
101	ルート2d・SK9・M1層	土師器	甕	口	外:灰黄褐色10YR4/2, 内:にぶい黄褐色10YR5/3, 肉:明赤褐色2.5YR5/6	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ナデ 内:横ヘラ削り 古代
102	ルート2c・P47・M1層	土師器	甕	口	外:にぶい褐色7.5YR5/4, 内:にぶい黄褐色10YR5/3, 肉:にぶい褐色7.5YR5/4	石英, 黒色粒, 角閃石	外:ナデ 内:横ヘラ削り 古代
103	ルート2d・SK6・M1層	土師器	甕	口	外:にぶい褐色7.5YR5/4, 内:橙色5YR6/6, 肉:にぶい黄褐色10YR7/4	石英, 黒色粒, 角閃石	内外:ナデ 古代
104	ルート2d・SK2・BLT・M1層	土師器	坏	口	外:にぶい黄褐色10YR6/4, 内:にぶい黄褐色10YR7/4, 肉:褐色7.5YR6/6	石英, 黒色粒	口径(15.7cm) 古代
105	ルート2d・SK4・M1層	土師器	坏	口	外:黄褐色10YR5/6, 内:黄褐色10YR5/8, 肉:明黄褐色10YR7/6	石英, 黒色粒	口径(11.4cm) 古代
106	ルート2d・SK7・埋土	土師器	坏	口	外:灰白色2.5Y8/2, 内:灰白色2.5Y8/2, 肉:にぶい黄褐色10YR7/3	石英, 黒色粒	古代
107	ルート2d・SK3・M1層	赤彩土器	坏	口	内外:浅黄褐色7.5YR8/4, 赤色顔料(明赤褐色5YR5/8), 肉:浅黄褐色7.5YR8/4	石英, 赤色粒, 黒色粒	内外:赤色顔料 古代
108	ルート2d・SK4・M3層	土師器	坏	口	外:浅黄褐色7.5YR8/6, 内:明黄褐色10YR6/6, 肉:浅黄褐色7.5YR8/6	石英, 赤色粒, 黒色粒	古代
109	ルート2d・SK4・M1層	土師器	坏	口	外:浅黄褐色7.5YR8/6, 内:浅黄褐色7.5YR8/6, 肉:浅黄褐色7.5YR8/6	石英, 黒色粒	古代
110	ルート2d・SK6・M1層	土師器	坏	口	外:浅黄褐色7.5YR8/6, 内:浅黄褐色7.5YR8/6, 肉:浅黄褐色7.5YR8/6	石英, 黒色粒	古代
111	ルート2d・SK6・M1層	土師器	坏	口	外:にぶい黄色2.5Y6/3, 内:にぶい黄褐色10YR7/4, 肉:にぶい黄褐色10YR7/3	石英, 黒色粒	古代
112	ルート2d・SK3・M1層	土師器	坏	口	外:褐色7.5YR7/6, 内:にぶい黄褐色10YR6/4, 肉:褐色7.5YR7/6	石英, 黒色粒	古代
113	ルート2d・SK10・M1層	土師器	坏	口	外:浅黄褐色10YR8/4, 内:にぶい黄褐色10YR7/4, 肉:にぶい黄褐色10YR7/4	石英, 黒色粒	古代
114	ルート2d・SK1・BLT・M1層	土師器	蓋	口	外:浅黄褐色10YR8/4, 内:黄褐色7.5YR8/4, 肉:浅黄褐色10YR8/4	石英, 黒色粒	口径(14.1cm) 須恵器蓋模倣? 古代
115	ルート2d・SK3・M1層	土師器	坏?	口	外:黒褐色7.5YR3/1, 内:明褐色7.5YR5/6, 肉:褐色7.5YR7/6	石英, 黒色粒, 赤色粒	内外:ミガキ 外:黒色 古代?
116	ルート2d・SK9・M2層	土師器	坏	底	外:浅黄褐色7.5YR8/4, 赤色顔料(明赤褐色5YR5/6)の塗布あり, 内:にぶい黄褐色10YR7/3, 肉:にぶい黄褐色10YR7/3	石英, 黒色粒	底径(6.5cm) 立ち上がり部:ケズリ 底:ヘラ切りロクロ成形 古代:9C
117	ルート2d・SK10・M1層	土師器	坏	底	外:明黄褐色10YR6/6, 内:浅黄褐色10YR8/4, 肉:灰白色10YR8/2	石英, 黒色粒	立ち上がり部:ケズリ 古代:9C
118	ルート2d・SK10・M1層	土師器	坏	底	外:灰白色10Y8/2, 内:にぶい黄褐色10YR7/3, 肉:にぶい黄褐色10YR7/3	石英, 黒色粒	底径(7.1cm) 底:ヘラ切り 古代
119	ルート2d・SK2・BLT・M1層	土師器	坏	底	外:褐色7.5YR7/6, 内:明黄褐色10YR6/6, 肉:明黄褐色10YR6/6	石英, 黒色粒	底径(8.2cm) 古代
120	ルート2d・SK2・M1層	黒色土器(内黒)	甕	高台	外:褐色5YR6/6, 内:黒色7.5Y2/1, 肉:にぶい褐色7.5YR7/4	石英, 黒色粒, 赤色粒	底径(13.0cm) 外:ヘラケズリ 高台:ナデ 内:ミガキ 古代
121	ルート2d・SK5・M1層	土師器	円盤状加工品	完形	外:浅黄褐色10YR8/4, 内:浅黄褐色7.5YR8/4, 肉:浅黄褐色10YR8/4	石英, 黒色粒, 赤色粒	土師器底部再利用 径7.0-7.3cm 器厚1.3cm 底:ヘラ切り 橙色と赤色の粘土が層状に重なる 古代
122	ルート2a・4a層	須恵器	坏	高台	外:灰色5Y6/1, 内:黄灰色2.5Y6/1, 肉:灰色5Y6/1		底径(11.0cm) 古代:8C後半-9C前半
123	ルート7b・土器溜り3-4層	須恵器	蓋	口	外:黄灰色2.5Y6/1, 内:灰白色2.5Y7/1, 肉:灰白色2.5Y7/1	石英, 黒色粒	口径(15.8cm) 古代:8C後半-9C前半
124	ルート2a・4a層	須恵器	甕小壺	胴	外:灰色N5/, 内:灰色N5/, 肉:灰色N5/	石英	胴内:同心円文当具
125	ルート2a・4a層	須恵器	甕小壺	胴	外:暗灰色N3/, 内:灰色N4/, 肉:灰色N6/	石英, 黒色粒	外:格子目文 内:同心円文当具
126	ルート2d・SK1・M1層	須恵器	甕小壺	胴	外:自然軸:暗赤褐色2.5YR3/4, 内:灰色5Y6/1, 肉:灰白色5Y7/1	石英, 黒色粒	外:格子目文 内:平行線文当具
127	ルート2b・4a層	須恵器	甕小壺	胴	外:黄灰色2.5Y5/1, 内:自然軸:褐色10YR5/1, 肉:灰褐色7.5YR6/2	石英, 黒色粒	外:格子目文 内:同心円文当具
128	ルート2b・4a層	須恵器	甕小壺	胴	外:自然軸:灰色5Y4/1, 内:暗灰黄色2.5Y5/2, 肉:灰白色2.5Y8/2	黒色粒	外:平行線文 内:同心円文当具
129	ルート2d・SK1・BLT・M1層	須恵器	甕小壺	胴	外:浅黄褐色10YR8/3, 内:灰白色2.5Y8/1, 肉:浅黄褐色10YR8/3		外:平行線文 内:同心円文当具
130	ルート2a・4a層	須恵器	甕小壺	胴	外:自然軸:オリーブ灰色10Y4/2, 内:暗灰黄色2.5Y5/2, 肉:灰白色2.5Y8/1	石英, 黒色粒	外:平行線文 内:同心円文当具, 外面:緑釉様
131	ルート2d・SK4・M2層	須恵器	坏	底	外:灰白色N7/, 自然軸, 自然軸:オリーブ黒色7.5YR3/1, 内:灰白色10YR7/1, 肉:黄灰色2.5Y5/1	石英, 黒色粒	底径(6.5cm) 立ち上がり部:ケズリ 古代:8C後半-9C前半
132	ルート2a・4a層	瓦質土器	火鉢	口	素地:灰白色5Y7/1, 釉薬:灰オリーブ色がかった透明釉	石英, 赤色粒, 茶色粒	外:印花文, 連子文 内:ナデ 14C
133	ルート2a・4a層	浦口窯系白磁	碗	高台	素地:にぶい黄褐色10YR7/3, 釉:にぶい黄褐色10YR7/3	石英, 黒色粒, 赤色粒	底径(7.5cm) 連江県浦口窯 13C後半-14C前半 蛇目軸刺「今帰仁タイプ」
134	ルート2a・4a層	龍泉窯系青磁	碗	口	素地:灰白色10Y7/1, 釉:灰色10Y6/1		劃花文 12C中-後半
135	ルート2a・4a層	龍泉窯系青磁	碗	高台	素地:灰白色10YR7/1, 釉:緑灰色10GY6/1, オリーブ灰色10Y6/2		底径(5.3cm)
136	ルート2a・4a層	龍泉窯系青磁	皿	口	素地:灰白色5Y8/1, 釉薬:浅黄色7.5Y7/3		稜花皿 14C後半-15C
137	ルート2a・4a層	漳州窯系青花	皿	口	素地:にぶい褐色7.5YR7/4, 釉:灰白5Y7/2, 文様:暗青灰色5B3/1		外:圏線 内:格子目文 16C後半-17C前半
138	ルート2a・4a層	青花	瓶?	胴	素地:灰白色2.5Y8/2, 釉:透明, 文様:青灰色5B5/1		不詳 外:圏線, 草花文
139	ルート2c・4a層	肥前	碗	口	素地:灰白色5Y8/1, 釉:青みがかった透明釉, 文様:青灰色5B6/1		不詳 外:構成不明 内:二条圏線
140	ルート2c・4a層	硫酸瓶	蓋	ネジ	外:自然軸:灰褐色7.5YR4/2, 内:肉:にぶい褐色7.5Y5/3	石英, 黒色粒	型作り(バリ有) 砂目 ネジ部径5.8cm

7 まとめ

2011-1 地点の成果をまとめる。

掘削面積は小さいが、広範囲の土層を確認することができた今回の調査では、附属中学校グラウンドの敷地内において、北西側が高く、南東側が低くなるという自然地形を復元することが可能となった。そのため、北西側では、近世～近代に相当する 2・3 層はほぼ削平されており、残存していない。グラウンドの南西部のルート 2d では 5 層まで削平され、遺構部分で 4 層土を確認できる。

古代の土坑（SK1～10）は、当時最も標高の高かったと考えられるルート 2d 地点に集中している。土坑の平面規模は 88～124cm の円形、楕円形を呈し、深さ 48～82cm となっている。ポウル状の円形の穴になっているものや（SK124）、一部にテラス状の部分を持つものがある（SK4・10；SK6・7・9 も緩やかであるがその可能性がある）。埋土はある方向から土砂が入り込んだようなもの（SK1・4）、埋土が分けられず、一気に埋められたようなもの（SK2・6）、柱穴様にみえるもの（SK5・9）などがあった。埋土中からは古代の土師器を主体とし、古墳時代の土器が出土している。特に注意されるものでは、SK5 の土師器の円盤状加工品、SK7 の三角鋸状軽石製品、SK10 の雁又式鉄鋸などがある。古代の土坑は全ての土壌（1491.5 l）を取上げて 5mm メッシュで篩って遺物を回収し、調査ベルト部分に関してはウォーター・フローテーションし、植物遺体ほかの検出作業を行なった。付編 1 の高宮広土氏の分析結果に詳しいが、栽培植物としてはイネとオオムギが検出されている。放射性炭素年代測定では、7～9 世紀の年代となっており、遺物とも概ね符合している。

また、この集中する土坑群の面的な拡がりを確認するために、グラウンド西半部の 6000m² 余を地中レーダー探査（Sensors & Software 社製 NOGGIN PLUS：アンテナ 250hz）を実施したが、遺構等の配列が確認できるような有意な結果はでなかった。

ルート 7b と 7c で確認された竪穴住居跡（SI01・02）は、全形は不明であるが、方形住居と推定された。埋土からはどちらも掘床と貼床が検出された。SI01 は 5 層上面で検出されたため浅く、幅は 4.3m、貼床から掘床までの深さ 10cm 程度である。

SI02 は、4b 層上面から検出されかなり深く、幅が 3.8m、検出面から掘床までの深さは 95cm である。床面に薄い炭の層が検出された。遺物は小破片で古墳時代前半期の土器が出土している。

ルート 1 北端とルート 7c で確認された溝（SD1・2）は、幅 60～100cm 内と小規模で、調査された SD2 は、断面逆台形状で深さは 20cm 程度、遺物も出土しなかった。しかし、方向は北西―南東で一致している。

古墳時代と確定できる土坑・ピットは、ルート 7 で検出されている。いずれも土器が埋納されたもので、P89 は隅丸菱形の平面形の段掘りの土坑で、東原式土器古段階の小型壺が口縁部を打ち欠かれた状態で出土した。また、P290 は楕円形状ピット内に、東原式土器古段階の甕 2 個体（1 個体はほぼ完形、もうひとつは口縁部と脚のみ）、口縁部のみ壺 1 個体の 3 個体分が出土している。P89 は埋納したもの、P290 は廃棄であろうか。

各調査区で無数のピットが検出されている。配列不明で時代を特定できるものが少ないが、検出面から考えて概ね古墳時代におさまるものと考えられる。そのなかで、P168・171・176 では、5 層基盤層との境界付近で縄文時代前期の曾畑式土器が出土し、5 層砂層上に植生が繁茂し始めたときから、人類の活動が始まっていると捉えることができる。



PL.24 地中レーダー探査の様子

IV 総括

2009-1 と 2011-1 の調査成果を基に、鹿大構内遺跡教育学部敷地内遺跡の様相を概観する (Fig.39)。

1 旧地形

2009-1, 2011-1 の土層からは、最も標高の高い地点が 2011-1・ルート 2d 地点であり、表土攪乱層 20～30cm 下に、郡元団地地区の基盤砂層である 5 層 (2009-1 の 3 層) が検出されている場所である。次いで表土攪乱層下 30～50cm で古墳時代・古代を主体とする包含層 4 層 (2009-1 の 2 層) が検出される 2009-1 北区, 2011-1 ルート 7, 6, 5, 1 地点などである。このことは附属中学校敷地内の大半は、古墳時代を中心とした遺物包含層が良好に包蔵されていることを示している。そして最も標高の低い場所が 2011-1 ルート 2a を中心とした場所で、ここでは 2～5 層までが確認できる。すなわち、南西部が最も高く、南東部が最も低い旧地形を復元することができる。

2 縄文時代

縄文時代前期には 2011-1 地点において、曾畑式土器が出土している。出土層位は 4 層の最下部であり、一定量出土しているが、遺構は確認されていない。2009-1 南区でも表採されていた。曾畑式土器は過去の調査, 93-6: 郡元団地 M～T-7～10 区 (運動場) 地点¹⁾ のうち, 15・16 トレンチでも出土していることから、出土箇所の拡がり確認された。今回の調査では口縁部が出土していないため、時期を絞り込むことは難しいが、過去の調査も併せて、曾畑式土器の I・II 期に相当すると考えられる²⁾。なお、4 層最下部は基盤砂層である 5 層の直上に相当することから、砂層が安定し、植生が回復してからさほど時をおかずに、人類活動の痕跡が確認されることになる。

3 弥生時代

遺構は確認されていないが、わずかに土器小片が出土している。時期が絞り込める資料は、弥生時代後期ごろのもので、瀬戸内系の土器も甕、壺の小破片が得られている。4 層に属すると考えられる。

4 古墳時代

古墳時代前半期を主体とし、時期が明確なものは、前期の成川式土器様式群のうち、東原式土器である。甕、小甕、壺、大壺、小壺、高坏、埴などが出土している。表採資料であるが、壺の突帯部にイネの圧痕を有する資料も確認された。

遺構は 5 層上面 (2009-1 の 3 層上面) で検出されるものが多いが、上位の 4b 層上面で 4a 層を埋土として検出された遺構もある。竪穴住居跡は平面形が方形を呈し、全て貼床と掘床をもち、かつ、軸が北西方位である。2009-1 では SK8・9・16 の 3 基, 2011-1 では SI01・SI02 の 2 基が確認された。規模が確認された SI02 は 1 辺が 3.7m ほどである。SI02 は壁際に壁溝や小ピットを有する。注目されるのは、2009-1SK16 や 2011-1SI02 のように、検出面から掘床底面までの深さが 60～100cm に近い深さの竪穴住居跡が確認されたことであろう。時期は判然としないが、SI01・SI02 得られた土器片の特徴は、古墳時代前半期のものであると考えられる。SI02 内からは土器だけでなく、鉄製品も得られており、刀子の柄部分ではないかと考えられる。床面に拡がる炭の放射性炭素年代測定結果は、5 世紀前半～6 世紀前半となっており、土器から判断される年代観と矛盾しない。溝跡は 2009-1 地点で 3 箇所, 2011-1 地点で 3 箇所確認されている。全体像が不明であるが、ほとんどの溝跡が北西—南東方位となっており、企画性は存在している。住居跡の軸方位とも合致している。自然地形の高低にも合致していることから、排水機能を意図した可能性もあるが、埋土中にクロスミナなどの水の流れを示すものは検出されていない。ほかにも 2009-1・SD4 とした自然流路 (これは明らかに水が流れ、河川砂で埋没している) が北東—南西方位に流れ、SK9 を破壊している。人為的に掘削された溝跡とは方位、埋土ともに明らかに異なっている。土坑・ピットは、多数確認

されているが、2009-1では土坑5基、ピットが87基、2011-1地点では土坑15基、ピットが284基検出されている。このなかには地形の落ち込み、樹痕、シミなど、人為的でないものも含まれている。また、調査区幅が小さいために、柱の配列などほとんど明確にすることができなかったが、個別には注目すべき土坑、ピットがある。2009-1・SK5、2011-1・P290、P89である。SK5およびP290には破損の著しい土器がまとまって出土し、前者には甕・高坏（円形スカシあり）、後者には甕・小甕・壺が入れ込まれる。口縁部～底部まで接合するものはP290甕1点のみで、あとは大半の箇所が失われていることから、破損した土器を廃棄したものと捉えている。P89には口縁部のみを打ち欠いた小壺が入れ込まれており、廃棄というよりも意図的に埋設したものと考えられる。ピット内に入っていたということから、住居を廃絶する際、柱を抜き取り、ピット内に土器を埋納した可能性もあるのかもしれない。土器の特徴からは、全て東原式土器であり、古段階に位置づけられる資料群である。遺構の性格とともに、同様式（古）の良好なセット関係の一端が確認された意義は大きい。

5 古代

遺物からみると、平安時代のものが主であり、8世紀後半～9世紀代までに収束する資料であろう。遺物は土師器の甕、坏、椀、蓋、赤彩土器（坏）、黒色土器（内黒）椀、円盤状加工品、須恵器は高台付坏、坏蓋、甕壺の胴部片などが出土している。ほかにも雁又式鉄族や軽石製品の出土も認められる。遺構は、2011-1・ルート2d地点のみに集中して確認された。土坑SK1～10がある。土坑の平面規模・形状は88～124cmの円形、楕円形を呈し、深さ48～82cmとなっている。ボウル状の円形の穴になっているものや、一部にテラス状のステップ部分を有するものがある。埋土の状況は様々で、一方向から流し込まれたようなもの、水平堆積のもの、一気に埋められたようなもの、柱穴を抜き取ったようなものなどがある。埋土中からは古代の土師器を主体とし、古墳時代の土器が出土している。特に注意されるものでは、SK5の土師器の円盤状加工品、SK7・9・10の軽石製品、SK10の雁又式鉄鏃などがある。雁又式鉄鏃は、鹿大構内遺跡において初出のものである。関東の古代鉄鏃から編年を行った津野仁によると、雁又式はⅡ期（9世紀後半～10世紀前半頃）の平安時代以降において盛行するものとされており³⁾、9世紀代という点においては、本遺跡の年代観とも概ね整合する。なお、先述した93-6:1トレンチ調査においても、古代の土坑が5基検出されており⁴⁾、最も大型のSK4は大きさ136.8+ α cm、116cmで、底面中央部にピット状の落ち込みを有する。埋土は水平堆積し、埋土3は炭が多量に含まれているとされている。形状・埋土・遺物出土状況も多様であり、遺構配置も明らかになったとは言えない。今後の調査に委ねたい。土坑SK1～10のウォーター・フローテーションによる分析結果、栽培植物としてはイネとオオムギが検出されている（付編1高宮論考参照）。古代の栽培植物種の一端が明らかとなった。SK2・5・10の炭化物による放射性炭素年代測定では、7世紀後半～9世紀後半の年代となっており、遺物とも概ね符合している。

6 中世

中世の遺物包含層は、郡元団地地区のほとんどの場所で近世の水田層によって削平され、消失しており、今回の調査箇所も同様であった。遺物は少量得られており、瓦質土器や備前播鉢などのほか、中国龍泉窯系青磁碗・稜花皿や浦口窯系白磁、漳州窯系青花碗・皿などが得られている。

7 近世

近世の遺構・包含層は、2009-1では確認されていないが、ピット中埋土に近世水田層土が混じる例があり、同地区でも現代の削平前には存在していたものと考えられる。2011-1では土坑が2基確認されている。SK24は埋土が3b層水田層の一部が検出されたが浅く、遺物も近世のものは含まれておらず、土器のみであった。SX01は播鉢状の土坑で、全形は不明であるが、調査区で確認された検出レベルからみると、4.6mある巨大なものである。ここにも近世の遺物は含まれていなかったが、埋土は近世の水田層が混じり土となっている。遺物は、肥前・波佐見焼碗、肥前染付碗、薩摩焼苗代川系陶器の胴部片を利用した円盤状加工品

などが出土している。

本調査地点は、校舎に沿った場所や側溝、暗渠部分の調査であるために、個別遺構等の全体像を知ることが困難であったが、広域にわたって遺物包含層と遺構の分布を知ることが可能となり、また、良好に遺物包含層が存在していることが判明した。古墳時代の住居跡、溝、東原式土器の埋納土坑の存在、古代土坑群の集中、曾畑式土器の出土など、郡元団地地区の生活史を復元するうえで重要な位置づけとなる地点である。

附属中学校敷地内における工事に際しては、今後も慎重な対応が必要であろう。

- 1) 中村直子（編） 2001『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』15 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 2) 堂込秀人 2008「曾畑式土器」小林達雄（編）『総覧縄文土器』アム・プロモーション 336-343 頁
- 3) 津野 仁 2011『日本古代の武器・武具と軍事』吉川弘文館
- 4) 1) に同じ。

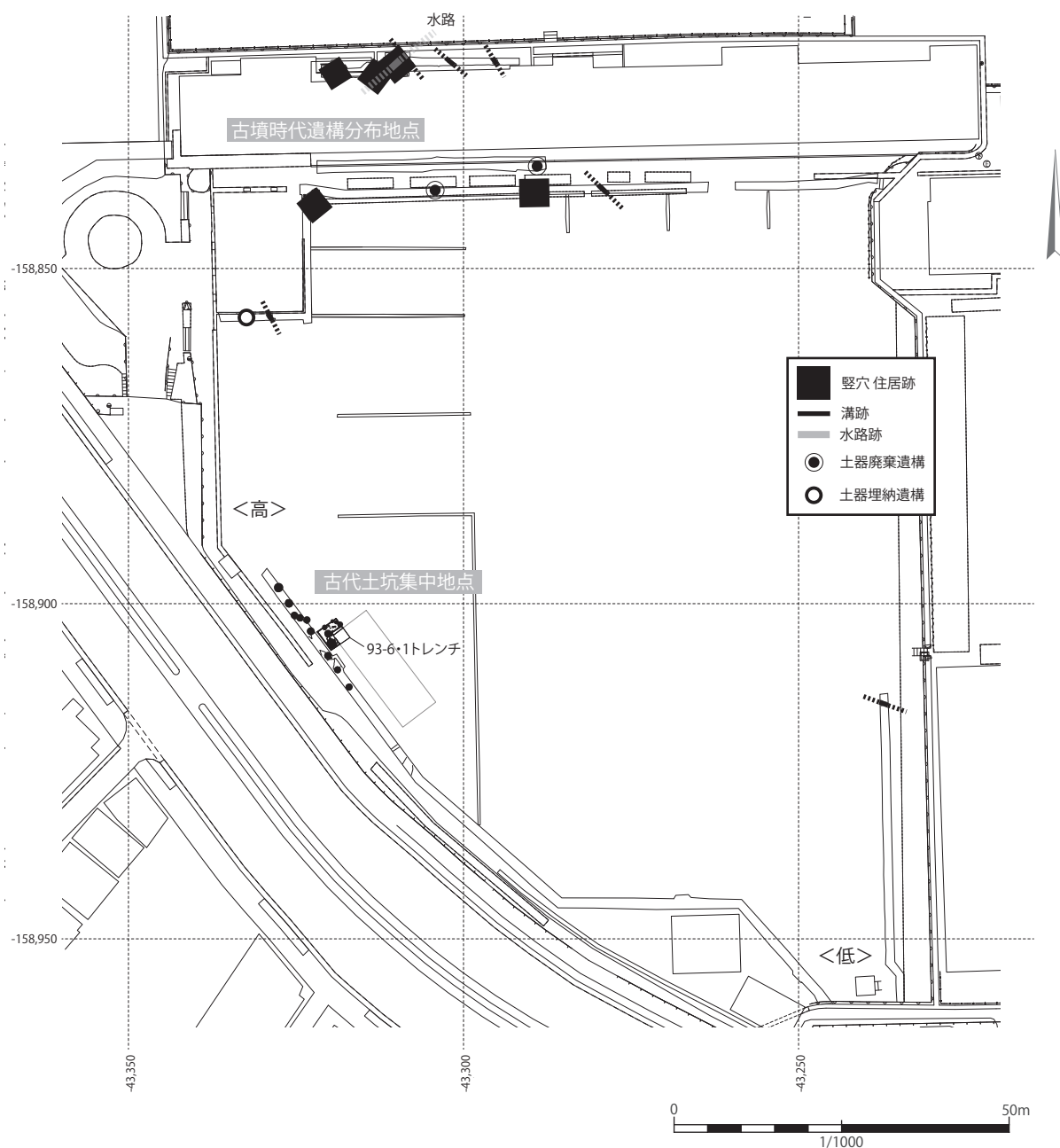


Fig.39 2009-1・2011-1の主要遺構

付編 1 鹿児島大学構内遺跡 2011-1 出土の植物遺体

札幌大学 高宮広土

1 遺跡の概要

- a) 遺跡の所在 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-15
- b) 遺跡の名称 鹿大構内遺跡 R～T-7～9区
- c) 調査機関 鹿児島大学埋蔵文化財センター
- d) 調査担当者 新里貴之
- e) 発掘期間 平成 23 年 8 月～10 月
- f) 文化 古代
- g) 遺跡の年代 8 世紀後半～9 世紀 (C14 年代 [木炭] 8～9 世紀)

2 バックグラウンド

鹿児島県内では、古墳時代に属する長田遺跡（有明町）においてフローテーションを実施したところ、イネ、アワ、イネ科およびタデ科？等の炭化穀類を検出することができた（高宮 2003）。土壌サンプル量約 250l にたいして、イネおよびイネ？が 150（粒／片）ほど、アワおよびアワ？が 4（粒／片）報告されている。イネがこれほど検出されたことは、典型的な弥生農耕の延長線上にある生業のように思われた。残念なことにその後、鹿児島県内ではあまりフローテーションは実施されておらず、古墳時代の生業あるいは農耕システムについては、十分に理解されていない。また、古墳時代に後続する古代に関する生業や農耕システムは、古墳時代以上に不明である（新里貴之 2014, 私信による）。

今回、鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）に所在する古代の遺跡である R～T-7～9 区より、約 300 リットルの土壌サンプルが SK 遺構よりサンプリングされ、フローテーション処理がなされ、筆者に送付されてきた。種実と思われる炭化物を鹿児島大学埋蔵文化財センターのメンバーによってピックアップされたものであるが、計 60（粒／片）の炭化種実が確認された。そのうち、38 粒は同定不可能であった。以下、今回回収された植物遺体について報告する。

3 検出された炭化種実（表 1）

イネ *Oryza sativa* L.

イネ穎果が 3 片検出された。写真 1 にみられるように、そのうち 2 片は同一穎果の破片のようである。写真上部破片のサイズは、長さ×幅×厚さ（以下同様）2.2 × 2.7 × 1.5mm、下部破片は 2.2 × 2.5 × 1.6mm であった。その長さは 4.4mm 以上であり、九州では平均的な大きさかやや大きめだと思われる。琉球列島出土のイネと比較するとかなり大型である。また、イネ破片と思われるが、保存状態の悪い破片 2 片をイネ？とした。

オオムギ *Hordeum vulgare* L.

オオムギ穎果が 4 粒検出された。そのうち 1 粒は計測可能で、そのサイズは 5.9 × 3.6 × 2.0mm であった（図 1-2）。1 粒のみであるが、オオムギとしては大きい方という印象を得た。オオムギと思われるが保存状態が悪く、オオムギと同定するには特徴の欠いている 2 片をオオムギ？とした。

ムギ類

オオムギかコムギ穎果と思われるが、そのどちらかに同定できなかった植物遺体をムギ類とした。1 粒回収されている。

マメ科 Leguminosae

マメ科種子が 1 粒検出されている。写真 3 のサイズは 3.3 × 2.5 × 2.3mm であった。へその部分等が明瞭でなく、属レベル以下での同定はできなかった。

ブナ科 Fagaceae

ブナ科子葉片が 9 片回収された。写真 4 はそのうちの最大のもので、残存部の大きさは、6.1 × 3.9 × 4.1mm であった。

同定不可能

保存状態が悪く、同定することができなかった炭化種実を同定不可能とし、計 38 (片) をこのカテゴリーに分類した。

4 まとめと考察

計 60 (粒 / 片) の植物遺体が回収されたが、栽培植物はオオムギとイネのみであった。オオムギおよびオオムギ? が 6 粒でイネおよびイネ? は 5 片であった。長田遺跡報告 (高宮 2004) をもとにするといネが多く検出されることを期待していたが、どちらかというといオオムギが主体の傾向にあるようである。

今回の分析結果が古代の食性を反映しているのか、あるいは単にサンプリングによるものかについては、今後検証する必要がある。もしかしたら、有明町と鹿児島市の地域性もあったのかもしれない。また、今回出土数は少なかつたので、バイアスのある可能性も高いが、オオムギおよびイネは弥生時代のそれらより若干大きめな印象を受けた (例えば、高宮 2008)。やはり、オオムギやイネのサイズも今後の資料の蓄積に注目したい。

オオムギとイネに加えて、マメ科も検出されたが保存状態が悪く、属レベル以下での同定はできなかった。また、ブナ科子葉も 1 つのサンプルから集中して検出されている。堅果類もある程度は利用されていたのであろう。

筆者は、琉球列島において主に植物遺体の分析を行っているが、鹿児島県 (南九州) における農耕システムや植物食利用を解明することは、琉球列島における農耕のはじまり等の理解に大きく貢献すると考えている。それゆえ、今後も鹿児島県内 (南九州) の古墳・古代を含む各時代における遺跡よりフローテーションが実施されることを切に願う。

謝辞

このような機会を与えてくださった鹿児島大学埋蔵文化財センター新里貴之氏に心より感謝申し上げたい。また、本研究は文部科学省科研費 (課題番号 21101225) の一部を利用した。

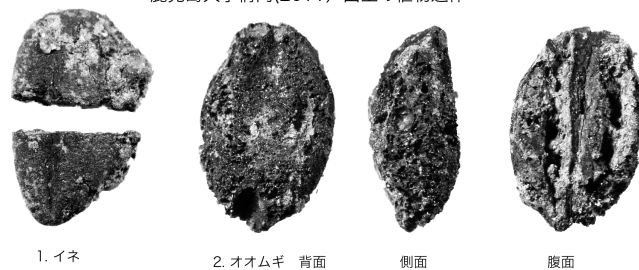
参考文献

- 高宮広土 2003「2号住居跡の床面土壌のウォーターフローテーションと炭化種子の同定：長田遺跡出土の大型植物遺体」『長田遺跡』有明町教育委員会 (編) pp.95-100. 有明町教育委員会：有明町
- 高宮広土 2008「カラカミ遺跡(2004・2006年度)出土の植物遺体」『壱岐カラカミ遺跡 I』宮本一夫 (編) pp.114-120. 九州大学大学院：福岡市

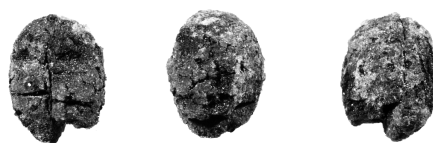
表 1 鹿大構内遺跡 2011-1 出土の植物遺体一覧

遺構	FL No.	層位	土壌サンプル量(〇)	備考(HF or LF)	堅果類子葉(片)	イネ(片)	イネ?(片)	オオムギ(粒)	ムギ類(粒)	オオムギ?(粒)	マメ科(粒)	UNI(片)	合計(粒/片)	
SK1	1	M1	9									1	1	
	3	BLT M1	10.8	LF							1		1	
	4	M1	5	LF				1					1	
	5	BLT M1	11.8	LF								4	4	
	17	BLT M1	11	LF								2	2	
	19	M1	13.5	LF								2	2	
	21a	M1	11.2	LF								1	1	
	21b	M1	11.2	LF			1					1	2	
	21c	BLT M1	11.2	LF								3	3	
	22	M3	10.2	HF				1					1	1
	25	M1	12.8	HF								1	1	
	7	BLT M1	10.5	LF								3	3	
	8	BLT M1	12.5	LF								2	2	
	9	M1	12.5	LF					2				2	
	11	M1	10.8	HF					1				1	1
13	M1	8.3	LF								2	2		
15	M2	8	LF								1	1		
18a	BLT M1	15.7	LF							1		1	1	
18b	BLT M1	15.7	LF							1		3	3	
篩140	BLT M1	12.5	5mmメッシュ利用					1				1	1	
SK6	26	BLT M1	6	LF					1			1	2	
	28	BLT M1	5.2	LF								3	3	
	29	BLT M1	4.8	LF								3	3	
	38	BLT M1	7	LF								1	1	
SK7	39	M2	5	LF							1	1		
SK9	41	M1	11	LF										
	45	M1	9.1	LF								1	1	
SK10	48	M4	15.8	HF			2						2	
	49		9.5	HF		9						1	10	
	50	BLT M3	10.5	LF										
	51	BLT M3	10.7	LF								1	1	
	55	M1	12.6	LF								1	1	
計			330.9			9	3	2	4	1	2	1	38	60

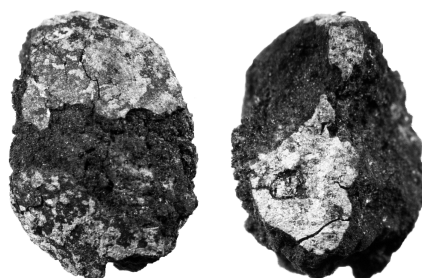
鹿児島大学構内(2011) 出土の植物遺体



1. イネ 2. オオムギ 背面 側面 腹面



3. マメ科 ヘソの部分 側面 背面



4. フナ科子派 表面 内面

図 1 植物遺体

付編 2 鹿児島大学構内遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

鹿児島大学構内遺跡(教育学部附属中学校敷地内)の測定対象試料は、第2号住居跡床面(炉)出土炭化物(2011-1-1:IAAA-121324)、土坑2埋土内出土炭化物(2011-1-2:IAAA-121325)、土坑5埋土内出土炭化物(2011-1-3:IAAA-121326)、土坑10埋土内出土炭化物(2011-1-4:IAAA-121327)の合計4点である(表1)。

2 測定の意義

第2号住居跡は遺物の出土が少なく、年代が不明確であるため、年代測定により判断する。

古代の土坑2(SK2)、土坑5(SK5)、土坑10(SK10)を年代測定によって土坑の年代を確認する。

3 化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。(2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。(5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。(6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

(1) $\delta^{13}C$ は、試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。(2) 14C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。14C年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。14C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、14C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。(3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。pMCが小さい(14Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(14Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の14C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の14C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C年代に対応する較正曲線上の暦年較正年代であり、1標準偏差(1 σ =68.2%)あるいは2標準偏差(2 σ =95.4%)で表示される。グラフの縦軸が14C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}C$ 補正を行い、下1桁を丸めない14C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース(Reimer et al. 2009)を用い、OxCalv4.1較正プログラム(Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラ

ムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

炭化物の 14C 年代は、第 2 号住居跡床面 (炉) 出土の 2011-1-1 が 1590 ± 20yrBP, 土坑 2 埋土内出土の 2011-1-2 が 1280 ± 20yrBP, 土坑 5 埋土内出土の 2011-1-3 が 1230 ± 20yrBP, 土坑 10 埋土内出土の 2011-1-4 が 1220 ± 20yrBP である。暦年較正年代 (1σ) は、2011-1-1 が 430 ~ 533cal AD, 2011-1-2 が 681 ~ 768cal AD, 2011-1-3 が 719 ~ 861cal AD, 2011-1-4 が 772 ~ 869cal AD の間に各々複数の範囲で示される。2011-1-1 は古墳時代中期から後期頃に相当する年代値となっており、周辺の遺構から出土している古墳時代前期の土器よりも新しいと考えられる。2011-1-2 ~ 4 は古代頃の値で、出土土器から考えられる時期と矛盾しない。

試料 2011-1-2 ~ 4 の炭素含有率は 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。2011-1-1 は、炭化物が黒い土の中に含まれた状態で、炭化物と土の区別が難しい部分が認められた。炭素含有率は 23% で、炭化物としては低い値を示しており、試料には若干土が含まれていた可能性がある。

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111- 1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 1

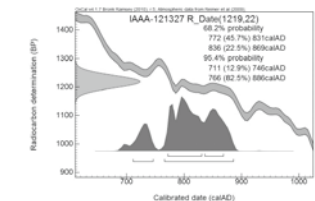
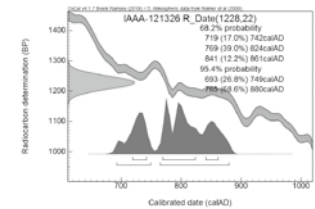
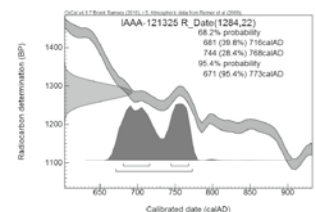
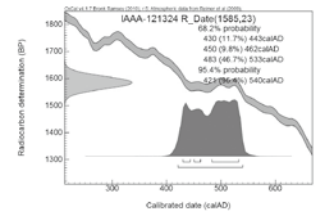
測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-121324	2011-1-1	ルート 7b 第 2 号住居跡 (SI02) 床面 (炉)	炭化物	AaA	-29.84 ± 0.36	1,590 ± 20	82.09 ± 0.24
IAAA-121325	2011-1-2	ルート 2d 土坑 2 (SK2) 埋土内	炭化物	AaA	-26.90 ± 0.36	1,280 ± 20	85.22 ± 0.24
IAAA-121326	2011-1-3	ルート 2d 土坑 5 (SK5) 埋土内	炭化物	AaA	-29.42 ± 0.44	1,230 ± 20	85.82 ± 0.24
IAAA-121327	2011-1-4	ルート 2d 土坑 10 (SK10) 埋土内	炭化物	AaA	-27.75 ± 0.39	1,220 ± 20	85.91 ± 0.24

[#5309]

表 2

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-121324	1,670 ± 20	81.27 ± 0.23	1,585 ± 23	430calAD - 443calAD (11.7%)	421calAD - 540calAD (95.4%)
				450calAD - 462calAD (9.8%)	
				483calAD - 533calAD (46.7%)	
IAAA-121325	1,320 ± 20	84.89 ± 0.23	1,284 ± 22	681calAD - 716calAD (39.8%)	671calAD - 773calAD (95.4%)
				744calAD - 768calAD (28.4%)	
				719calAD - 742calAD (17.0%)	
IAAA-121326	1,300 ± 20	85.04 ± 0.23	1,228 ± 22	769calAD - 824calAD (39.0%)	693calAD - 749calAD (26.8%)
				841calAD - 861calAD (12.2%)	
				772calAD - 831calAD (45.7%)	
IAAA-121327	1,260 ± 20	85.43 ± 0.23	1,219 ± 22	836calAD - 869calAD (22.5%)	711calAD - 746calAD (12.9%)
				772calAD - 831calAD (45.7%)	
				772calAD - 831calAD (45.7%)	

[参考値]



[参考] 暦年較正年代グラフ

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第9集

鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）

Q・R-8・9区（附属中学校増築・改修工事）

R～T-7～9区（附属中学校グラウンド改修工事その他）

2014年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL 099-285-7270

印刷 株式会社 朝日印刷

鹿児島市上荒田町55-1

TEL 099-251-2191
